

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ロシア等で上方修正されたものの、インド、アルゼンチン、カザフスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。

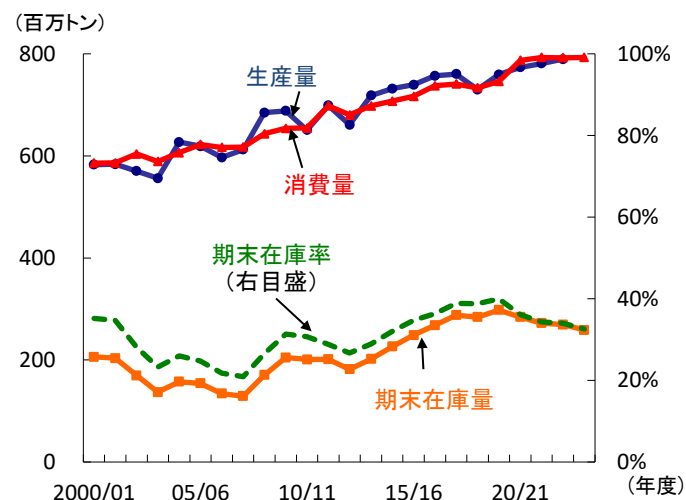
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・ロシア等で上方修正されたものの、カザフスタン、フィリピン等で下方修正され、前月からわずかに下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ウクライナで上方修正されたものの、アルゼンチン、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



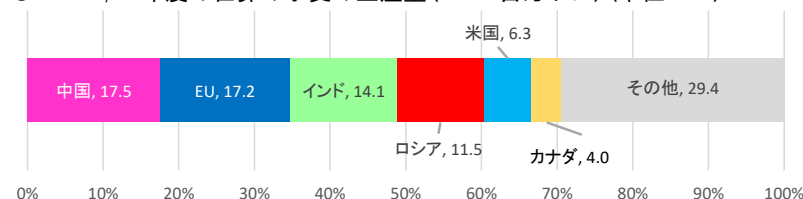
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

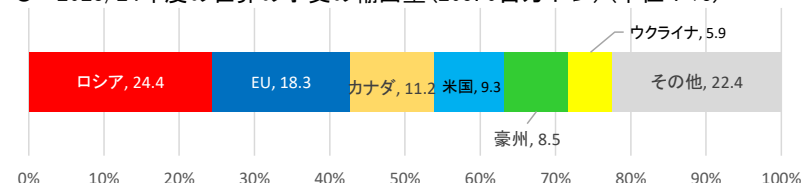
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	781.0	789.5	782.0	▲ 1.5	▲ 1.0
消 費 量	792.7	792.4	792.8	▲ 0.0	0.1
うち飼料用	161.3	155.1	157.8	1.4	1.7
輸 出 量	202.8	220.4	205.0	▲ 1.3	▲ 7.0
輸 入 量	199.5	212.0	204.7	0.1	▲ 3.4
期末在庫量	272.4	269.6	258.7	0.6	▲ 4.0
期末在庫率	34.4%	34.0%	32.6%	0.1	▲ 1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 November 2023)

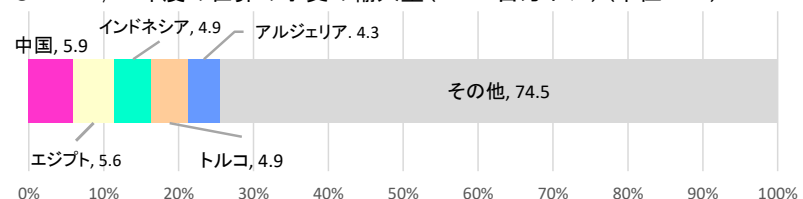
○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(782.0百万トン) (単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(205.0百万トン) (単位: %)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(204.7百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2023/24 年度の期末在庫量は前年度に比べ 17.5%増加

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 49.3 百万トンと、前年度に比べ 9.8%増、過去 5 年平均に比べ 1.3%増となる見込み。USDA「Crop Production」(2023.11.9)によれば、冬小麦、春小麦及びデュラム小麦の生産量は、いずれも前月予測からの変更はなく、それぞれ 34.0 百万トン、13.7 百万トン及び 1.6 百万トンの見込み。種類別生産量を前年度と比べると、冬小麦は主要産地が 2 年連続で干ばつに見舞われたものの、収穫面積及び単収の増加により 13.1%増加した。春小麦も乾燥天候に見舞われ単収が低下したものの、収穫面積の増加により 2.6%増加した。一方、デュラム小麦は、収穫面積は増加したものの、生育期間に乾燥天候に見舞われ単収が減少したため、7.3%減少した。

USDA の「Crop Progress」(2023.11.20)によれば、2024/25 年度の冬小麦の播種が進展しており、11 月 19 日時点の播種進捗率は 95%と前年度同期(98%)及び 5 年平均(96%)を下回った。他方、発芽進捗率は 87%と前年度同期(86%)及び 5 年平均(85%)を上回った。作柄評価(やや良い～良い)の割合は 48%と前年度(32%)を上回っている。なお、11 月第 3 週の作柄について過去 6 年と比べると、2020 年以降で最も高くなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 19.1 百万トンと、前年度に比べ 7.7%減少し、1972/73 年度以降で最低の見込み。2023/24 年度(2023 年 6 月～9 月)の輸出量は、国際市場で価格競争力が乏しいことから、6.3 百万トンと前年度同期(8.9 百万トン)を 27.9%下回った。

米国産の輸出価格は、輸入需要の低下と 2024/25 年度の冬小麦の良好な作付け状況から、11 月 7 日時点で 289 ドル/トンと前月より 16 ドル/トン低下したものの、主要輸出 6 か国(米国のほか、ロシア、EU、カナダ、豪州、アルゼンチン)では、カナダ(317 ドル/トン)、豪州(302 ドル/トン)に続き高い水準となっている。

2023/24 年度の輸入量は、カナダ及び EU からの輸入が好調なことから、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、4.0 百万トンと 5 年平均の 3.0 百万トンを 30.2%上回る。この輸入量の増加は、HRW (ハード・レッド・ウィンター) の生産量が干ばつの影響を受けたため、国内価格が高騰し、製粉業者が相対的に安価な EU 等の高タンパク小麦を調達したことによる。

期末在庫量は、2017/18 年度から低下傾向となっていたが、2023/24 年度は消費量の下方修正と輸入量の上方修正から前月予測から 0.4 百万トン上方修正され 18.6 百万トンと前年度を 17.5%上回った。これを受けて、2018/19 年以降低下していた期末在庫率は、36.8%と前年度(30.8%)から 6.0 ポイント上昇した。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年6月～24年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.8	44.9	49.3	-	9.8
消 費 量	29.8	30.8	31.4	▲ 0.1	2.2
うち飼料用	1.8	2.4	3.3	-	35.1
輸 出 量	21.7	20.7	19.1	-	▲ 7.7
輸 入 量	2.6	3.3	4.0	0.3	19.0
期末在庫量	19.0	15.8	18.6	0.4	17.5
期末在庫率	37.0%	30.8%	36.8%	0.8	6.0

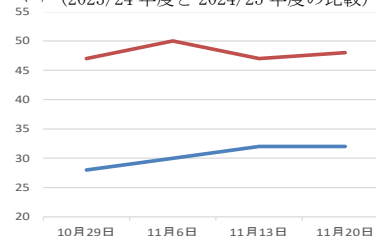
(参考)

収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.08	-	5.0
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.27	-	4.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 November 2023)

図 冬小麦の作柄評価の推移(「やや良」と「良」の計)

(%) (2023/24 年度と 2024/25 年度の比較)

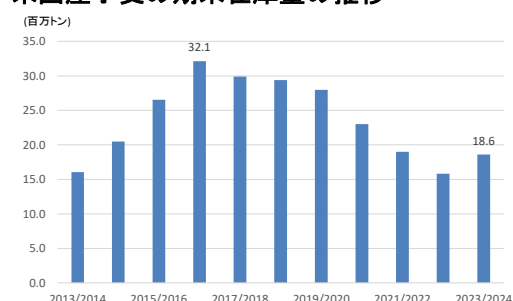


		評価基準							(単位: %)
作柄評価 (良、やや良)の各割合	計	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
	良	8	10	11	6	7	5	9	
	やや良	44	46	41	37	37	27	39	
計		52	56	52	43	44	32	48	

(注) 各年度の調査日、2017年:11月19日、2018年:11月18日、2019年:11月17日、2020年:11月22日、
2021年:11月21日、2022年:11月20日、2023年:11月19日

資料: USDA「Crop Progress」をもとに農林水産省で作成

図 米国産小麦の期末在庫量の推移



資料: USDA「PS&D」(2023. 11. 9)をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2023/24 年度の普通小麦、デュラム小麦の品質は良好

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2023.11.21)によれば、小麦全体の生産量は前月予測からの変更はなく、29.8 百万トンと前年度より 13.1%減少、過去 5 年平均に比べ 5.1%減少する見込み。前年度に比べ、収穫面積は増加(前年度比 5.6%増)したものの、主要生産地のカナダ西部で干ばつにより単収が低下(同 17.9%減)した影響を受けた。

小麦全体のうち普通小麦の生産量は、収穫面積が増加(同 7.9%増)したものの、プレーリー平原の干ばつにより単収が低下(同 16.4%減)したことから、25.8 百万トンと前年度比 9.7%減、5 年平均比 1.6%減の見込み。また、デュラム小麦の生産量は、収穫面積の減少(同 1.5%減)と主産地のアルバータ州南部等の干ばつによる単収の低下(同 28.6%減)から、4.1 百万トンと前年度比 29.9%減、5 年平均比 22.5%減の見込み。

10 月 23 日時点のサンプル調査の結果、普通小麦、デュラム小麦とも品質は良好で、普通小麦(HRS:ハード・レッド・スプリング)は、サンプル数の 71%以上が 1 等、27%が 2 等に格付けされ、両等級のタンパク質含有量は 13.8%と前年度(13.9%)をわずかに下回ったものの、5 年平均(13.7%)を上回った。また、デュラム小麦はサンプル数の 83 %が 1, 2 等に格付けされ、両等級のタンパク質含有量は平均で 14.8%と前年度(14.7%)、5 年平均(14.1%)を上回った。

各州政府の報告によれば、①サスカチュワン州では、10 月中旬までに小麦の収穫はほぼ終了し、単収は 2.87 トン/ヘクタールと、10 年平均の 2.82 トン/ヘクタールを上回った。②マニトバ州では、10 月下旬までに収穫はほぼ終了し、春小麦の品質は良好で、タンパク質含有量は 13.5～15%であった。③アルバータ州でも 10 月中旬までに収穫は終了し、単収は 2.9 トン/ヘクタールと、前年度(3.6 トン/ヘクタール)を下回った。HRS の 65.9%が 1 等に格付けされた。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 21.3 百万トンと、輸出余力の低下を受けて前年度比 17.0%減少の見込み。品種別の輸出量は、普通小麦は前月予測からの変更はなく 18.0 百万トンと、前年度に比べ 12.7%減少。デュラム小麦は前月予測からの変更はなく 3.3 百万トンと、生産量の減少を受け前年度に比べ 34.7%減少する見込み。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、9 月の輸出量は、普通小麦が 187.1 万トン、デュラム小麦が 16.2 万トン。輸出先国は、普通小麦が中国(16.1%)、日本(9.0%)、インドネシア(9.0%)。デュラム小麦がイタリア(37.7%)、米国(19.8%)、アルジェリア(18.5%)の順で、生産量が減少したヨーロッパ、北アフリカ向けが多い。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年8月～24年7月)			
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	22.4	34.3	31.0 (29.8)	-	▲ 9.7	
消 費 量	10.2	9.3	8.7 (8.7)	-	▲ 6.7	
うち飼料用	5.2	4.2	3.5 (4.3)	-	▲ 16.1	
輸 出 量	15.1	25.6	23.0 (21.3)	-	▲ 10.1	
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1	
期末在庫量	3.7	3.7	3.6 (3.6)	-	▲ 2.7	
期末在庫率	14.5%	10.5%	11.2% (12.0%)	-	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.20	10.08	10.60 (10.65)	-	5.2	
単収(t/ha)	2.44	3.41	2.92 (2.80)	-	▲ 14.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(23 November 2023)

表 カナダ産小麦の輸出量、輸出先国
(普通小麦、デュラム小麦)

(普通小麦)			(輸出量：万トン、シェア：%)					
2023/24年度 (2023年9月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2021/22年度 (2021年8月～2022年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	30.1	16.1	中国	296.8	15.1	日本	159.2	13.8
日本	16.9	9.0	インドネシア	213.8	10.9	インドネシア	128.1	11.1
インドネシア	16.8	9.0	日本	167.3	8.5	コロンビア	102.4	8.9
ナイジェリア	14.7	7.9	ペルー	148.3	7.5	ペルー	79.2	6.9
バングラデシュ	12.2	6.5	バングラデシュ	144.4	7.3	中国	69.4	6.0
米国	10.4	5.6	コロンビア	109.9	5.6	エクアドル	65.8	5.7
その他	86.0	46.0	その他	886.1	45.1	その他	548.0	47.6
計	187.1	100.0	計	1,966.6	100.0	計	1,152.1	100.0

(デュラム小麦)			(輸出量：万トン、シェア：%)					
2023/24年度 (2023年9月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)			2021/22年度 (2021年8月～2022年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
イタリア	6.1	37.7	イタリア	121.0	23.9	モロッコ	72.2	27.5
アメリカ	3.2	19.8	アルジェリア	120.8	23.8	アルジェリア	44.5	16.9
アルジェリア	3.0	18.5	モロッコ	85.7	16.9	アメリカ	40.9	15.6
モロッコ	1.6	9.9	米国	50.4	9.9	イタリア	33.5	12.8
ベネズエラ	1.2	7.4	チュニジア	32.5	6.4	日本	20.2	7.7
日本	1.0	6.2	日本	18.1	3.6	ナイジェリア	12.3	4.7
その他	0.1	0.6	その他	78.8	15.5	その他	39.0	14.9
計	16.2	100.0	計	507.3	100.0	計	262.6	100.0

資料：Canadian Grain Commission のデータを基に農林水産省で作成

＜ 豪州 ＞2023/24 年度の小麦の収穫は、乾燥天候に恵まれ進展

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、24.5 百万トンの見込み。生産地の多くでエルニーニョ現象による乾燥天候が継続し、単収が引き下げられたことと収穫面積の減少から、史上最高であった前年度に比べると、2023/24 年度の生産量は 38.3%減少するものの、10 年平均(26.4 百万トン)に比べれば 7.2%の減少に留まっている。

USDA によれば、10 月は多くの生産地で降雨が平均以下となったが、ヴィクトリア(VIC)州やニューサウスウェールズ(NSW)州では、同月初旬に十分な降雨があり生育に寄与した。11 月に入り、東部の生産地で一時降雨により収穫が中断したものの、南部及び西部の生産地では気温が高く乾燥天候となり、収穫が進展した。現地情報会社によれば、収穫は 10 月から開始され、各州の 11 月 1 日時点の収穫進捗率は、クイーンズランド(QLD)州 72%(前月 6 %)、サウスオーストラリア(SA)州 12%(同 3 %)、NSW 州 13%(同 1 %)、ウェスタンオーストラリア(WA)州 12%(同 1 %)となった。これまでの収穫状況を受け、現地情報会社は 2023/24 年度の小麦生産量を前月予測から 1.5%増加の 25.3 百万トンと予測。

GIWA(西豪州穀物産業協会)(2023.11.17)によれば、WA 州の 2023/4 年度の生産量予測は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 7.9 百万トンの見込み。前年度の史上最高の生産量(13.9 百万トン)と比べると、43.2%の減少。高温乾燥の影響で、単収予測が収穫開始時より低下した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、17.5 百万トンの見込み。乾燥天候による生産量の減少から、過去最高の前年度の輸出量に比べ 45.0%減、10 年平均に比べ 7.4%減となる見込み。この豪州の輸出量の減少を受け、豪州の主要な輸出先国であったインドネシアでは、アルゼンチン産、ブラジル産等のシェアが伸びるとみられている。インドネシアでは、ウクライナ産の輸出量の減少もあり、ここ数年は豪州、アルゼンチンに加え、2021/22 年度に生産量が史上最高の 1,055 万トンに達し輸出量が増加しているブラジルが市場シェアを競ってきていた。

なお、豪州産小麦の輸出価格(FOB)は、11 月 7 日時点で、初期の収穫状況が予測を上回ったことから、前月から 14 ドル/トン低下し 302 ドル/トンとなった。

また、現地情報会社によれば、2022/23 年度(2022 年 10 月～2023 年 9 月まで)の輸出量は 3,184.3 百万トンで、2021/22 年度の同期間を 15.8%上回った。輸出先国は、中国(23.8%)、インドネシア(15.8%)、フィリピン(9.7%)の順で、上位 7 か国がアジア諸国向けで、そのシェアは全体の 8 割弱である。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年10月～24年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	36.2	39.7	24.5 (24.4)	-	▲ 38.3
消費量	8.5	8.0	7.5 (7.6)	0.3	▲ 6.3
うち飼料用	5.0	4.5	4.0 (3.9)	0.3	▲ 11.1
輸 出 量	27.5	31.8	17.5 (18.0)	-	▲ 45.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.5	3.5	3.2 (2.2)	0.4	▲ 8.5
期末在庫率	9.6%	8.8%	12.8% (8.7%)	1.3	4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.73	13.05	12.60 (12.60)	-	▲ 3.4
単収(t/ha)	2.85	3.04	1.94 (1.94)	-	▲ 36.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

図 豪州、アルゼンチン、ブラジルの小麦輸出量の推移

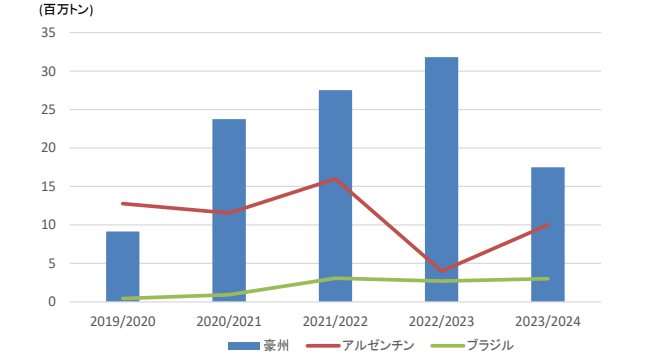


表 豪州の小麦輸出量と輸出先国

2023年9月			2022年10月～2023年9月			2021年10月～2023年9月		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
フィリピン	26.4	17.7	中国	756.7	23.8	中国	611.7	22.2
中国	23.4	15.7	インドネシア	504.2	15.8	インドネシア	377.5	13.7
インドネシア	14.1	9.4	フィリピン	308.2	9.7	ベトナム	293.9	10.7
ベトナム	11.1	7.4	ベトナム	285.0	9.0	フィリピン	284.6	10.3
イエメン	10.8	7.2	韓国	270.3	8.5	韓国	162.3	5.9
韓国	10.4	7.0	タイ	200.8	6.3	マレーシア	123.3	4.5
その他	53.1	35.6	その他	859.1	27.0	その他	896.8	32.6
計	149.3	100.0	計	3,184.3	100.0	計	2,750.1	100.0

資料：Australian Crop Forecasters S&D Export Report (2023.11)をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2023/24 年度の生産量は過去5年平均を上回る 133.6 百万トン

【生育・生産状況】欧州委員会(2023.10.25)によれば、2023/24 年度の EU27 の生産量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 133.6 百万トンと、前年度を 0.5% 下回るものの、過去5年平均を 0.8% 上回る見込み。小麦全体のうち普通小麦は、前月予測に比べ 0.2 百万トン上方修正され 126.5 百万トンと、前年度比で 0.2% 減少も、5 年平均比で 1.4% 増加。また、デュラム小麦は、わずかに上方修正され 7.1 百万トンと、前年度及び5年平均比でそれぞれ 0.5% 減、9.4% 減の見込み。EU の過去 10 年のデュラム小麦の生産量は、2016/17 年度に 9.7 百万トンに達した後、2021/22 年度に一時回復したものの、減少傾向である。

2024/25 年度の生育状況は、乾燥が継続していたルーマニア等では、11 月上旬の降雨を受け土壌水分が改善され良好な生育見通しとなった。一方、北部及び東部では気温が高く、休眠期に入っていない。

フランスアグリメールによれば、11 月 6 日現在、2024/25 年度のフランス産小麦のうち普通小麦の播種進捗率は 67% と 5 年平均(83%)を大きく下回り、発芽進捗率も 55% と 5 年平均(57%)を下回った。また、デュラム小麦の播種進捗率は 15% と 5 年平均(34%)を下回り、発芽進捗率も 6% と 5 年平均(8%)を下回った。普通小麦、デュラム小麦とも播種の進捗は遅れているが、生育状況は過去5年平均と概ね同程度。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 37.5 百万トンと、前年度に比べ 6.9% 増加の見込み。なお、11 月 7 日時点の輸出価格(FOB)は、中国からの需要増を受け前月より 4 ドル/トン上昇し 251 ドル/トンとなったものの、主要輸出 6 か国(米国の項を参照)でロシア(227 ドル/トン)に続く 2 番目の低水準である。なお、欧州委員会によれば、8 月の輸出量は普通小麦が 233.3 万トン(前年度同期比 45.0% 減)、デュラム小麦は 2.1 万トン(同 72.0% 減)。輸出先国は普通小麦がナイジェリア(14.3%)、モロッコ(13.5%)、韓国(8.1%)の順。デュラム小麦はモロッコ(30.9%)、コートジボワール(18.2%)、マリ(7.3%)の順。なお、EU は 2022/23 年度にカナダに次ぎ世界 2 位のデュラム小麦の輸出シェアを占めたが、2023/24 年度(2023 年 7 月・8 月)の輸出量は 4.8 万トンと、生産量の減少から前年度同期に比べ 67.5% の減少となっている。

ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題は、9 月 15 日の欧州委員会のトランジットを除く輸入禁止解除の決定後も、ポーランド、ハンガリー及びスロバキアは、ウクライナ産穀物のトランジットを認めながらも、独自規制を継続。11 月にはポーランドのウクライナ国境検問所で、EU とウクライナ間の国際貨物輸送の自由化合意撤廃と輸出許可制の復活等を求めるための運送業者による道路封鎖が生じている。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)
(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	138.2	134.2	134.3 (132.4)	0.3	0.1
消 費 量	108.3	108.0	108.5 (109.2)	-	0.5
うち飼料用	45.0	44.0	44.0 (44.7)	-	-
輸 出 量	31.9	35.1	37.5 (36.1)	-	6.9
輸 入 量	4.6	12.1	7.5 (7.7)	-	▲ 38.0
期末在庫量	13.3	16.5	12.3 (13.8)	0.3	▲ 25.4
期末在庫率	9.5%	11.5%	8.4% (9.5%)	0.2	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.29	24.38	24.22 (23.87)	▲ 0.03	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.69	5.50	5.55 (5.55)	0.02	0.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

表 EU 産小麦の輸出量と輸出先国

〈普通小麦〉						(輸出量：万トン、シェア：%)		
2023/24年度 (2023年8月)			2023/24年度 (2023年7月～2023年8月)			2022/23年度 (2022年7月～2022年8月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
ナイジェリア	33.4	14.3	モロッコ	119.2	21.7	アルジェリア	121.8	16.9
モロッコ	31.5	13.5	アルジェリア	45.7	8.3	モロッコ	95.7	13.3
韓国	19.0	8.1	韓国	44.1	8.0	エジプト	53.6	7.4
タイ	18.1	7.7	ナイジェリア	44.0	8.0	パキスタン	48.7	6.8
バングラデシュ	10.9	4.7	南アフリカ	26.3	4.8	ナイジェリア	41.9	5.8
その他	120.5	51.6	その他	269.8	49.1	その他	41.7	5.8
計	233.3	100.0	計	549.1	100.0	計	719.6	100.0

〈デュラム小麦〉						(輸出量：万トン、シェア：%)		
2023/24年度 (2023年8月)			2023/24年度 (2023年7月～2023年8月)			2022/23年度 (2022年7月～2022年8月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
モロッコ	0.7	30.9	モロッコ	0.8	16.7	チュニジア	4.1	27.6
コートジボワール	0.4	18.2	英国	0.6	13.3	アルジェリア	3.1	21.3
マリ	0.2	7.3	キューバ	0.5	11.6	リビア	2.2	15.0
サウジアラビア	0.1	6.2	コートジボワール	0.5	10.8	英国	1.7	11.2
スイス	0.1	5.5	スイス	0.4	8.2	コートジボワール	0.9	5.9
その他	0.7	31.9	その他	1.9	39.3	その他	41.7	282.6
計	2.1	100.0	計	4.8	100.0	計	14.8	100.0

資料：欧州委員会「Cereals export and import」(2023.10.20)を基に農林水産省で作成

< 中国 > 2023/24 年度の輸入量は前月予測から上方修正され 12.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、137.0 百万トンの見込み。史上最高となった前年度に比べ、収穫面積は増加したものの単収の低下から、生産量は 0.5% 減少した。中国の生産量は、2018/19 年度から毎年増加し、2022/23 年度に史上最高の 137.7 百万トンに達したものの、2023/24 年度は、5 月下旬の収穫期に河南省等で降雨の影響を受け単収が低下したことから史上 2 番目となる見込み。なお、この降雨により、小麦の一部で穂発芽やカビが発生し小麦の品質が低下した。

中国国家気象センター「中国気象農業報道」(2023.11.6)によれば、10 月末までの 2024/25 年度の冬小麦の生育状況は、河北省、河南省等で播種から出芽、三葉期まで達し、一部地域では分けつ期に入っているほか、湖北省等の一部で播種が開始されている。なお、河北省東部、河南省の一部で生育が通常より 4～7 日遅れているものの、大部分の生産地域では生育がほぼ平年並みか、若干早い。なお、中国農業農村部の農業状況調査(2023.11.8)によれば、冬小麦の播種進捗率は 80%を超えた。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、153.0 百万トンと前年度に比べ 3.4%増加する見込み。消費量のうち飼料用消費は、5 月下旬の降雨による品質低下から飼料用小麦の供給が増加したことを受け 37.0 百万トンと、前年度に比べ 12.1%増加する見込み。この品質が低下した小麦は飼料用途に向けられる他、食用の品質調整用として輸入小麦等と混合される。

2023/24 年度の輸入量は、中国産小麦の品質低下の懸念を受けて、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 12.0 百万トンとなるものの、前年度に比べ 9.6%減少の見込み。

中国税関統計によれば、2023 年 1 月から 9 月までの輸入量合計は 1,017.3 万トン。月別の輸入量では、5 月まで 110 万トン台～160 万トン台で推移したものの、6 月以降は 100 万トン以下で推移。8 月は製粉企業の高品質小麦への需要や、強力粉や薄力粉への需要が高まり輸入量が増加したが、9 月は 60 万トン台に低下。この間の輸入先国のシェアは、豪州が 62.5%、カナダが 17.4%、フランスが 8.1%で、この 3 か国で 88.0%を占める。豪州の 9 月のシェアは 54.7%と 1 位であるものの、前年同期(83.9%)に比べると低下した。

「農産品供需形勢分析月報 2023 年 9 月号」等によれば、国内市場の供給面では、新穀の出回りとともに活発化した製粉企業等の買付けが落ち着いたため、市場への小麦供給量も減少傾向となった。また、需要面では、中秋節と国慶節が過ぎ、小麦粉需要が徐々に減少するとみられており、製粉企業の小麦需要も高くない。このため、小麦の国内市場価格は安定的に推移するとみられている。

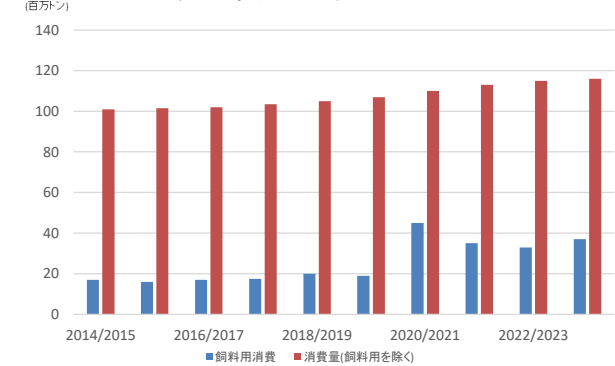
小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	137.7	137.0 (136.5)	-	▲ 0.5
消 費 量	148.0	148.0	153.0 (149.5)	-	3.4
うち飼料用	35.0	33.0	37.0 (32.0)	-	12.1
輸 出 量	0.9	1.0	0.9 (1.2)	-	▲ 5.3
輸 入 量	9.6	13.3	12.0 (11.7)	1.0	▲ 9.6
期末在庫量	136.8	138.8	133.9 (137.9)	1.0	▲ 3.5
期末在庫率	91.9%	93.2%	87.0% (91.6%)	0.6	▲ 6.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.70 (23.70)	-	0.8
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.78 (5.76)	-	▲ 1.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

図 中国の小麦消費量の推移(飼料用、飼料用除く)



資料：USDA 「PS&D」(2023. 11. 9)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量及び輸入先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2023年9月			2023年1月～2023年9月		
国 名	輸入量	シェア	国 名	輸入量	シェア
豪州	33.7	54.7	豪州	636	62.5
カナダ	8.8	14.3	カナダ	177	17.4
米国	7.6	12.3	フランス	82	8.1
カザフスタン	7.2	11.7	米国	63	6.2
ロシア	4.0	6.5	カザフスタン	41	4.0
その他	0.3	0.5	その他	18	1.8
計	61.6	100.0	計	1,017	100.0

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2023/24 年度の生産量は前月予測から上方修正され 90.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量(クリミア地域分を含まず)は、収穫面積の増加と単収の上昇を受け、前月予測から 5.0 百万トン上方修正され、90.0 百万トンの見込み。史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ、生産量は 2.2%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 13.1%上回り史上 2 位となる見込み。種類別の生産量は、冬小麦が、播種期の降雨による収穫面積の減少を受け前年度より 5.2%減少したものの、春小麦は、収穫面積の増加を受け 6.3%増加した。

ロシア農業省の速報値によれば、11 月 10 日時点の実生産量(品質調整前重量)は、収穫進捗率 99.0%で 94.3 百万トンと前年度同期の 105.0 百万トンを下回るものの、史上最高の前年度に次ぐ豊作の見込み。また、同日時点で、2024/25 年度の冬小麦の播種は、播種進捗率は 99.3%となり、ほぼ終了した。播種面積は、前年度同期(17.49 百万ヘクタール)を上回る 18.42 百万ヘクタールに達した。

ロシア気象センターによれば、2024/25 年度の冬小麦の生育状況は、①ヨーロッパ部で、出芽期から子葉生成期、分けつ期となり、作柄は並み～良好となっている。②アジア部で、分けつ期となり、作柄は概ね良好～並みである。アジア部のうちウラル、西シベリア地域では気温低下により生長が停止した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 50.0 百万トンと、これまで史上最高であった前年度(47.5 百万トン)を更に 5.3%上回る見込み。この輸出量増加の背景には、生産量と期首在庫量を合わせた国内供給量が 104.6 百万トンと潤沢なことがある。

2023/24 年度のうち 2023 年 7 月～10 月のロシアの輸出量は 1,966.1 万トンと、過去最高の輸出量であった 2022/23 年度の同期間(1,466.9 万トン)を 34.0%上回った。一方、月別では、10 月は 488.1 万トンとなり前月を 10.6%下回った。現地調査会社によれば、輸出が減速すれば、輸出業者が調達を減らし国内価格が下がり、生産者は売り控えると見られている。なお、10 月の輸出先国は、トルコ(14.9%)、エジプト(11.1%)、バングラデシュ(9.7%)の順で、中東、北アフリカ諸国向けが多い。

11 月 9 日、ロシア経済発展省は 2024 年 2 月 15 日から 6 月 30 日までに設定される小麦を含む穀物輸出枠(ユーラシア経済同盟加盟国は対象外)を 2,400 万トンと公表。なお、2023 年の輸出枠(2,550 万トン)は、輸出枠の未消化分の再配分ができない等の制度上の問題から、その全量が消化されなかった。

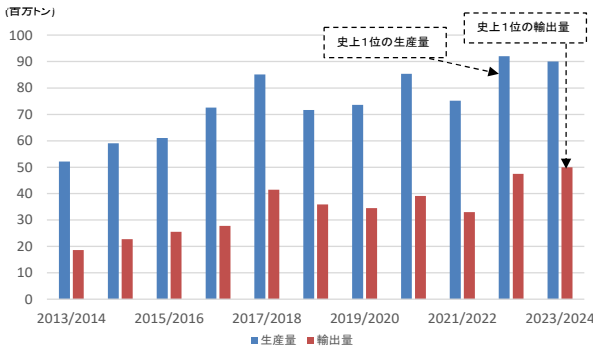
現地調査会社によれば、輸出枠の設定期間は端境期と重なるため、輸出量が 1,900 万トン～2,100 万トンとなる見込みから、本年度の輸出枠も余裕があるとみられる。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)
(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	75.2	92.0	90.0 (89.0)	5.0	▲ 2.2
消 費 量	41.8	42.3	43.0 (43.6)	2.0	1.8
うち飼料用	18.5	19.0	20.0 (19.0)	2.0	5.3
輸 出 量	33.0	47.5	50.0 (49.1)	-	5.3
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	12.1	14.6	11.9 (11.4)	3.0	▲ 18.4
期末在庫率	16.2%	16.3%	12.8% (12.4%)	3.0	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	29.00 (28.35)	0.70	-
単収(t/ha)	2.72	3.17	3.10 (3.14)	0.10	▲ 2.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

図：ロシアの小麦の生産量、輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2023.11.9)をもとに農林水産省で作成

表：ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月)		2023/24年度 (2023年7月～2023年10月)		2022/23年度 (2022年7月～2023年6月)		2021/22年度 (2021年7月～2022年6月)	
国 名	輸出量	国 名	輸出量	国 名	輸出量	国 名	輸出量
トルコ	72.6	エジプト	264.4	エジプト	836.8	トルコ	669.7
エジプト	54.4	トルコ	229.8	トルコ	682.1	イラン	626.6
バングラデシュ	47.4	バングラデシュ	130.2	バングラデシュ	199.2	エジプト	500.5
アルジェリア	30.5	アルジェリア	123.4	パキスタン	155.2	サウジアラビア	97.3
パキスタン	28.8	イラン	101.7	イラン	149.6	ナイジェリア	73.5
イラン	28.6	サウジアラビア	80.7	アゼルバイジャン	136.9	スーダン	71.2
イエメン	18.0	イスラエル	72.3	カザフスタン	125.5	アゼルバイジャン	69.7
その他	207.8	その他	963.6	その他	2,521.5	その他	2,521.5
計	488.1	計	1,966.1	計	4,806.8	計	3,260.2

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023 年 7 月の黒海穀物イニシアティブ履行停止後も小麦輸出は継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく22.5百万トンの見込み。前年度に比べた生産量は、収穫面積の減少も、良好な天候による単収の上昇により前年度(21.5百万トン)を4.7%上回るものの、5年平均(26.8百万トン)を16.1%下回る。

ウクライナ農業政策食料省によれば、冬小麦の収穫は、11月10日現在で22.4百万トン(前年度同期19.4百万トン)となった。収穫面積は4.69百万ヘクタールと前年度(4.71百万ヘクタール)に比べ減少したものの、単収が4.77トン/ヘクタールと前年度(4.10トン/ヘクタール)を上回った。

2024/25年度の冬小麦の播種が例年どおり9月初めから開始されており、11月6日現在の播種面積は3.87百万ヘクタールと前年度同期(3.64百万ヘクタール)を上回り、作付け進捗率は88.8%となった。

生育段階は、出芽期から第3葉形成期、一部で分けつ期に入っており、作柄は概ね並み～良好である。なお、大半の圃場で8月下旬からほとんど降雨がなく、9月も高温により干ばつ状態が深刻化したものの、10月下旬の降雨で土壌水分が補充された。ウクライナ東部の一部では、降雨不足が継続している。

なお、現地農業団体によれば、ロシアによるウクライナ侵攻後、肥料、種子、農薬の価格が上昇し、加えて販売価格が低迷していることから、離農が発生するとともに、生産者は冬作物の播種面積を減らしており、さらに春作物の播種面積も減少させる可能性がある。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、黒海イニシアティブを代替する臨時回廊の稼働等を受け、前月予測から1.0百万トン上方修正され、12.0百万トンとなるものの、前年度(17.1百万トン)及び5年平均(18.0百万トン)をそれぞれ29.9%、33.2%下回る見込み。

ウクライナ政府等によれば、2023年10月の輸出量は129.7万トンと前年度同期に比べ33.8%減少しているものの、黒海イニシアティブが履行停止となった7月に比べると57.4%増加している。輸出先国は、10月はスペイン(49.3%)、エジプト(8.6%)、ベトナム(7.3%)の順で、スペイン向けの輸出が全体の半分近くを占めた。

また、2023/24年度のうち7月から10月までの輸出量は463.3万トンで、輸出先国はスペイン(30.9%)、ルーマニア(20.7%)、エジプト(12.2%)の順。ベトナム、インドネシア向けの輸出がされているものの、アジアやサハラ以南のアフリカに大量の小麦を輸出する能力が限られているため、多くはEU、北アフリカ諸国向けである。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	33.0	21.5	22.5 (27.4)	-	-	4.7
消費量	10.5	8.4	8.8 (13.1)	-	-	4.8
うち飼料用	4.5	3.4	4.2 (3.0)	-	-	23.5
輸 出 量	18.8	17.1	12.0 (12.5)	1.0	▲	29.9
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	33.3
期末在庫量	5.3	1.3	3.1 (4.4)	▲ 1.0		136.9
期末在庫率	18.0%	5.1%	14.8% (17.0%)	▲ 5.8		9.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.41	5.60	5.00 (5.95)	-	▲	10.7
単収(t/ha)	4.45	3.84	4.50 (4.61)	-		17.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

図 ウクライナ産小麦の生産量、輸出量の推移

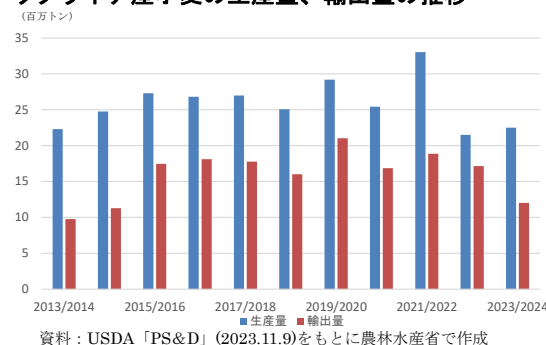


写真 2024/25 年度冬小麦の圃場(2023. 11. 11)



冬小麦の播種面積は1500haで、前年度より500ha減らした。
これは、小麦価格が低く、利益は言うまでもなく、コストさえカバーできないからである。コストの大半は料代と運送費である。
圃場では2024/25年度の冬小麦が出芽期に入っており、生育状況は並み～良好である。

(参考)黒海穀物イニシアティブ履行停止後の輸出状況

黒海穀物イニシアティブの履行停止により、その後の主要輸出ルートは、①鉄道、トラック等でウクライナのイズマイル港等に向かった後、はしけ等でドナウ川を經由し、ルーマニアの黒海港湾(コンスタンツァ港他)から「臨時回廊」を經由するルート、または、ウクライナの黒海港湾(オデーサ港他)から直接「臨時回廊」を經由する港湾ルート、②ポーランド等の欧州諸国を通過する陸路ルートの2つとなっている。

ウクライナ政府及び現地調査会社のデータでによれば、この輸出ルートのうち、港湾を經由した月平均小麦輸出量は、黒海穀物イニシアティブ履行期間中(2022年8月～2023年7月)は121.4万トンであり、同履行停止後(2023年8月～2023年10月)は、100.0万トンに減少しているものの、17.6%の減少に留まっている。

一方、鉄道による輸出量は、黒海穀物イニシアティブ履行期間(2022年8月～2023年7月)では月平均14.5万トンであったが、同履行停止後(2023年8月～10月)には月平均20.9万トンと、44.2%増加。また、同履行停止直後の2023年7月に小麦輸出量は12.3万トンであったが、同年10月には23.2万トンと88.6%増加した。

この結果、ウクライナ産小麦の月平均輸出量を黒海穀物イニシアティブ履行期間と履行停止後の期間と比較すると、同履行期間(2022年8月～2023年7月)の月平均輸出量144.0万トンに対し、同履行停止後(2023年8月～2023年10月)の月平均輸出量は、海上輸送能力の制限により、127.9万トンに減少しているものの、11.1%の減少に留まっている。また、黒海穀物イニシアティブの履行停止後、小麦全体の輸出量は7月に減少したものの、その後は港湾、鉄道が利用され、増加傾向となっている。

一方で、ウクライナ産穀物の東欧5か国への過剰流入問題は、11月現在、ポーランド、ハンガリー等が独自規制を継続し、ポーランドではウクライナとの国境で道路封鎖も生じており、その影響が懸念されている。

USDAによれば、ロシアがウクライナに侵攻した2021/22年度の侵攻後の数か月と同様に、黒海ルート経由の輸出が減少し、国内生産量に占める輸出量の割合は低水準となり、2023/24年度の期末在庫量は3.1百万トンと前年度に比べ136.9%増加すると見られている。

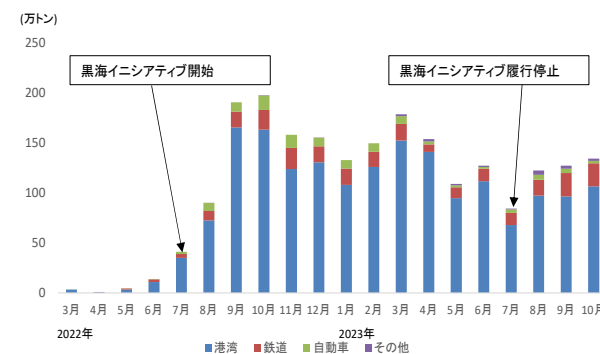
2022年2月からのシカゴ小麦相場の動向は、ロシアのウクライナ侵攻を受けて2022年3月7日に史上最高の210.4ドル/トンに上昇したのち、黒海穀物イニシアティブによる輸出の再開等から低下傾向となった。2023年7月のロシアによる黒海イニシアティブ履行の停止後は、ロシアによるウクライナの港湾施設等への攻撃で一時的に上昇したものの、ウクライナからの輸出の継続と好調なロシアからの輸出により、2023年11月中旬現在、202.4ドル/トンと、ロシアによるウクライナ侵攻前の水準で推移している。

図 黒海穀物イニシアティブルートと黒海穀物イニシアティブ履行停止後のウクライナ産穀物の輸出ルート



出所：国連の地図に、ガーディアン紙(2023年8月9日付)を参考に調査会社が作成。

図 ウクライナ産小麦の輸送手段別輸出量の推移



資料:ウクライナ農業政策食料省及びインフラ省、現地情報会社のデータをもとに、農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・メキシコ、エジプト等で下方修正されたものの、米国、ウクライナ、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

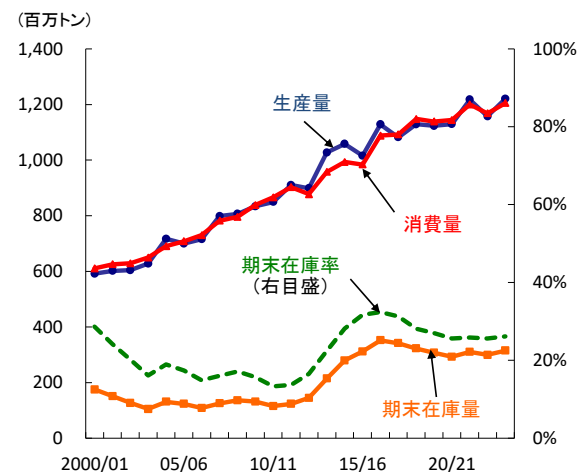
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・トルコ、イラン等で下方修正されたものの、米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドで下方修正されたものの、米国、ロシア、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2023.11.9）をもとに農林水産省にて作成

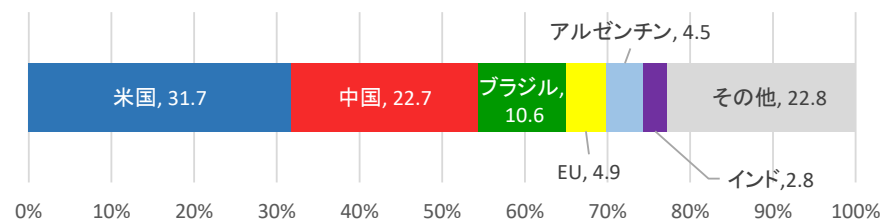
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

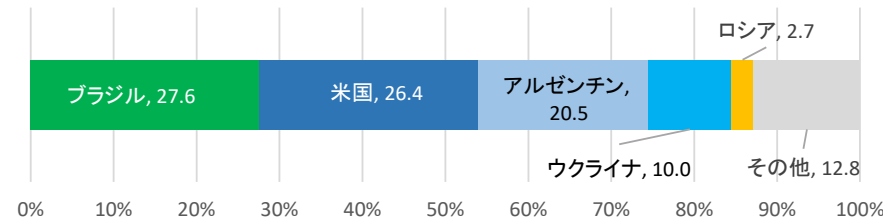
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,217.3	1,157.1	1,220.8	6.3	5.5
消費量	1,199.9	1,168.2	1,205.0	4.8	3.2
うち飼料用	744.5	730.6	759.8	3.5	4.0
輸出量	206.6	180.9	199.6	3.4	10.3
輸入量	184.4	172.2	189.9	3.0	10.3
期末在庫量	310.3	299.2	315.0	2.6	5.3
期末在庫率	25.9%	25.6%	26.1%	0.1	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 November 2023）

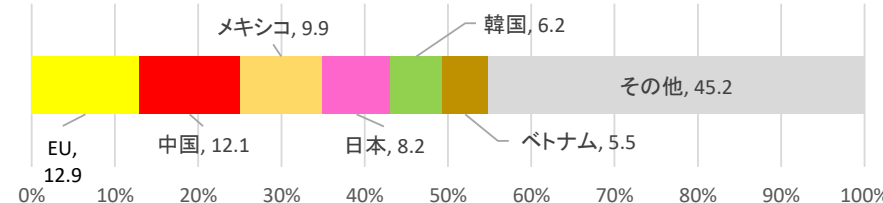
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,220.8 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(199.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(189.9 百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 単収の引上げにより、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、主要生産州のイリノイ州、インディアナ州、ミネソタ州等の単収の引上げや収穫面積の増加（対前年度比 10.0%増）等を受けて前月予測から 4.3 百万トン上方修正され、前年度より 11.1%増の 387.0 百万トンと、史上最高となる見通し。収穫面積の増加については、肥料価格の高騰が前年度から落ち着いたことを受けてとうもろこしを選択した農家が増加したことも要因とみられる。

USDA「Crop Progress」（2023.11.20）によれば、11月19日現在で主要18州における収穫進捗率は93%と、前年度同期（96%）を下回ったものの、過去5年平均（91%）を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、国内供給の増加により前月予測から 1.9 百万トン上方修正され、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ 2.3%増の 314.7 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、国内供給の増加と年度当初の輸出需要が想定より好調なことから前月予測より 1.3 百万トン上方修正され、国際的なとうもろこし価格低下に伴う需要増加を受けた輸出の回復期待から、前年度より 24.9%増の 52.7 百万トンの見込み。他方で、2023/24年度に輸入が増加すると見込まれる中国への輸出をめぐり、旧穀の収穫が終了し史上最高の生産見通しとなったブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.11.9）によれば、本年11月の米国産の輸出価格は、ミシシッピ川における水位低下の緩和等を受け、11月7日現在、前月から 20 ドル/トン低下し 211 ドル/トン。なお、2023年9～10月の輸出量は 534 万トンと、前年同時期の 430 万トンより 24%増加。輸出先国の内訳は中国（215.9 万トン）、メキシコ（136.5 万トン）、コロンビア（69.4 万トン）の順となっている。

USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、2023/24年の生産量が上方修正されたため前月予測から 1.1 百万トン上方修正され、増産により前年度より 58.3%増の 54.8 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 5.0 ポイント上昇し 14.9%と、過去3年平均（9.1%）を上回っている。

とうもろこしー米国

（単位：百万トン）

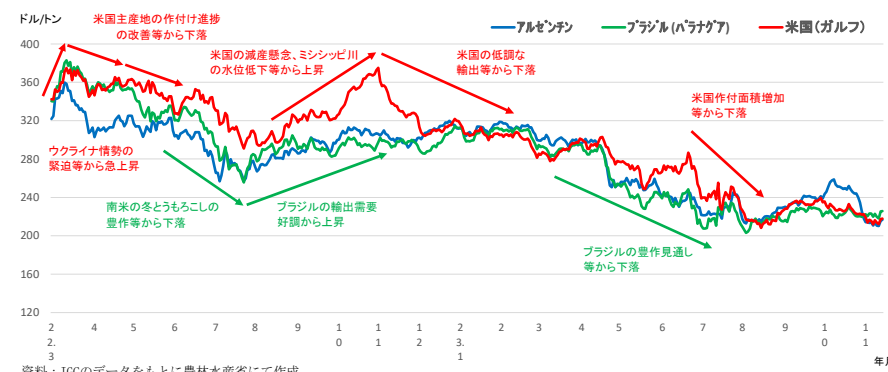
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	382.9	348.4	387.0	4.3	11.1
消 費 量	317.1	307.6	314.7	1.9	2.3
うち飼料用	145.5	141.0	143.5	1.3	1.8
エタノール用等	135.1	131.5	135.3	0.6	2.9
輸 出 量	62.8	42.2	52.7	1.3	24.9
輸 入 量	0.6	1.0	0.6	-	▲ 34.7
期末在庫量	35.0	34.6	54.8	1.1	58.3
期末在庫率	9.2%	9.9%	14.9%	0.2	5.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.53	32.05	35.25	-	10.0
単収(t/ha)	11.09	10.88	10.98	0.12	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（9 November 2023）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量は大豆等への転換により減少

【生育・生産状況】USDAによれば、本年9月以降に作付けが開始されている2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.8%減の129.0百万トンの見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2023.11.9）によれば、2023/24年度のとうもろこしの生産量は、前年度比9.6%減の119.1百万トンの見込み（P.24 大豆－ブラジルのクロープカレンダー参照）。生産量の減少は、とうもろこしの市場価格の低下により大豆等に作付けがシフトし、収穫面積が21.1百万ヘクタールと前年度より5.0%減少することによるとみられる。

2023/24年度の夏とうもろこしは、南部のパラナ州の作付進捗率が11月6日時点で95%と前年同時期（93%）を上回っており、南部のリオ・グランデ・ド・スール州の作付進捗率が11月9日時点で79%と前年同時期（80%）をやや下回っている。

なお、生産量の約8割を占める冬とうもろこしについては、大豆の収穫を待って来年2月以降に作付けが行われる。中西部の乾燥、南部の降雨過多による大豆の作付け遅延に伴い、大豆の収穫、冬とうもろこしの作付けが遅れ、雨季における十分な降雨の恩恵を受けられないとの懸念がある。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用、加工用ともに需要増加等から、前年度より3.3%増の77.5百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度より3.5%減の55.0百万トンとなるものの、引き続き高水準の生産量と競争力のある安価な輸出価格から、2年連続で世界最大の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023年1～10月の輸出量は42.4百万トンで、前年度比37%増。内訳は、中国（11.4百万トン）、日本（5.1百万トン）、ベトナム（2.9百万トン）の順。前年11月末以降に開始された中国向けとうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡した7月以降本格化しており、一部の港で滞船が見られたものの概ね順調に輸出されている。

とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約8割、夏とうもろこしは約2割）

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（24年3月～25年2月）			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	116.0	137.0	129.0 (127.2)	-	▲ 5.8	
消 費 量	70.5	75.0	77.5 (80.1)	-	3.3	
うち飼料用	59.5	62.5	63.5 (54.8)	-	1.6	
輸 出 量	48.3	57.0	55.0 (50.0)	-	▲ 3.5	
輸 入 量	2.6	1.3	1.2 (0.5)	-	▲ 7.7	
期末在庫量	4.0	10.3	8.0 (7.9)	▲ 0.1	▲ 22.4	
期末在庫率	3.3%	7.8%	6.0% (6.1%)	▲ 0.1	▲ 1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	21.80	22.40	22.90 (22.14)	-	2.2	
単収(t/ha)	5.32	6.12	5.63 (5.74)	-	▲ 8.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

写真：ブラジル・サントス港のとうもろこし倉庫

（2023年11月10日撮影）



南東部サントス港のとうもろこし倉庫。
当該倉庫には9万トンの穀物を貯蔵可能。

＜ アルゼンチン ＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始されている 2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により生産量が激減した前年度から大きく回復する見通しから、61.8%増の 55.0 百万トンで史上最高となる見込み。

USDA によれば、早植えとうもろこしの作付けが 9 月末から 12 月上旬まで続き、12 月上旬から遅植えとうもろこしの作付けが始まる。

ブエノスアイレス穀物取引所の週報（2023.11.16）によれば、作付進捗率は 25.1%と、干ばつの影響を受けた前年度同期を上回ったものの、降雨不足により過去 5 年平均を下回っている。他方で、11 月上旬になって主産地の多くで降雨があり、前週より 1.5 ポイント進展した。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 20.5%増の 14.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、供給余力が出てくる見通しから、前年度より 78.3%増の 41.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～9 月の輸出量は 20.3 百万トンで、2022/23 年度産が減産となった影響を受け、前年度同期比（30.2 百万トン）で 33%減となった。輸出先の内訳は、ベトナム（291.4 万トン）、ペルー（207.1 万トン）、韓国（196.5 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。2021 年 12 月 17 日、アルゼンチンの農牧水産大臣は、とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定することを表明。2023 年 11 月中旬現在、とうもろこしの輸出上限数量は 2021/22 年度 36 百万トン、2022/23 年度 20 百万トンにそれぞれ設定されている。

2023 年 11 月 19 日に実施された大統領選挙の結果、左派政権に代わり右派のミレイ氏が当選しており、今後の輸出税への影響など、注視が必要。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

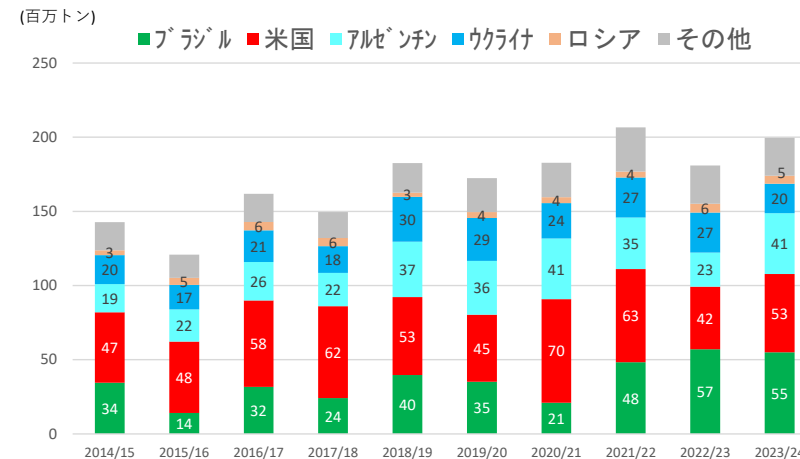
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（24年3月～25年2月）		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.5	34.0	55.0 (61.0)	-	61.8
消 費 量	14.2	11.7	14.1 (20.4)	-	20.5
うち飼料用	10.1	7.5	9.8 (15.5)	-	30.7
輸 出 量	34.7	23.0	41.0 (40.9)	-	78.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	1.8	1.1	1.0 (3.6)	-	▲ 9.0
期末在庫率	3.7%	3.2%	1.8% (5.9%)	-	▲ 1.4

（参考）

収穫面積(百万ha)	7.10	6.70	7.10 (8.20)	0.10	6.0
単収(t/ha)	6.97	5.07	7.75 (7.44)	0.04	52.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC「Grain Market Report」(19 October 2023)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移 (2023/24 年度、アルゼンチンは世界第 3 位に戻る見通し)



資料：USDA「PS&D」（2023. 11. 9）のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 主産地の降雨過多の影響を受けるも、生産量は史上2番目

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付けが大豆へシフトすることに加え主産地の降雨過多から、前年度より0.1%減の277.0百万トンとなるも、前年度に次ぐ史上2番目の見込み。

11月上旬現在、黒竜江省等が主産地の春とうもろこし、河南省等が主産地の夏とうもろこしのいずれも、収穫は終盤に差し掛かっている。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこし国際価格の低下等から、前年度より1.7%増の304.0百万トンと史上最高の見込み。背景には、国内の堅調な食肉需要があるとみられる。中国国家统计局（2023.10.19）によれば、1～9月の肉類生産量は6,974万トンと、前年同時期比で3.9%増。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国内価格が国際価格を上回っているほか、特に前年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より22.9%増の23.0百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023年1～9月の輸入量は、前年同期より10.4%減の1,655.7万トン。内訳は、米国（621.0万トン）、ウクライナ（533.5万トン）、ブラジル（377.3万トン）の順。2023年4月以降、米国産の輸入量が前年同月より大きく減少しており、その背景として、米国産がブラジル産等に比べて割高であることから輸入を控え、輸入再開した豪州産大麦等の他の穀物を飼料向けに代替する動きがあるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023年9月号」によると、9月の国内価格は、新穀の流入を受けたものの、食肉生産が堅調であったため、2,960 元/トンと前月（2,920 元/トン）からわずかに上昇した。

USDAによれば、2023/24年度の実在庫量は、2022/23年度の実輸入量が引き上げられたことから、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、国内の堅調な飼料用需要の増加を背景とした消費量の増加により前年度より2.0%減の202.0百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年10月～24年9月）			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	272.6	277.2	277.0 (280.6)	-	▲ 0.1	
消 費 量	291.0	299.0	304.0 (305.5)	-	1.7	
うち飼料用	209.0	218.0	223.0 (205.0)	-	2.3	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	21.9	18.7	23.0 (20.0)	-	22.9	
期末在庫量	209.1	206.0	202.0 (171.0)	0.2	▲ 2.0	
期末在庫率	71.9%	68.9%	66.4% (56.0%)	0.1	▲ 2.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	43.00 (43.30)	-	▲ 0.2	
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.44 (6.48)	-	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC「Grain Market Report」(19 October 2023)

表：中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2023年9月			2023年1月～2023年9月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	124.6	75.7	米国	621.0	37.5
米国	19.3	11.7	ウクライナ	533.5	32.2
ウクライナ	12.2	7.4	ブラジル	377.3	22.8
ミャンマー	5.1	3.1	ブルガリア	63.4	3.8
ロシア	2.1	1.3	ロシア	24.6	1.5
カザフスタン	0.7	0.4	ミャンマー	23.0	1.4
その他	0.7	0.3	その他	12.9	0.7
計	164.7	100	計	1,655.7	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

< ウクライナ > 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 30.0%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、単収の上方修正により前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、29.5 百万トンとなった。前年度より収穫面積が減少も、天候に恵まれ単収が上昇（前年度比 10.6%増）することを受け、前年度より 9.3%増となったものの、侵攻前の 2021/22 年度比では 30.0%減となる見通し。

USDA によれば、11 月上旬、温暖で乾燥した気候が広がり、収穫が進展した。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 10 日現在の収穫進捗率は 72%と、前年度同期（50%）より進んでいる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.8%増の 5.5 百万トンの見込み。背景には、戦争直後の 2022/23 年度と比較し、畜産物生産が回復することによる飼料用需要の増加があるとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、臨時回廊による輸出量の回復を受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、供給量の減少や主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 25.9%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 25.9%減の 20.0 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、2023 年 10 月の輸出量は 128.4 万トン（海上輸送、陸路等での全ての輸出が含まれる）と、臨時回廊による輸出量が増加したため前月比で 2 倍となったものの、黒海穀物イニシアティブが履行されていた前年同月比では 45%減。輸出先国は、スペイン（38.2 万トン）、オランダ（14.6 万トン）、イタリア（14.1 万トン）、ポルトガル（10.6 万トン）、中国（10.4 万トン）の順。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 166.8%増の 6.4 百万トンの見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前年度から 17.7 ポイント増の 25.2%となる見込み。ロシアがウクライナに侵攻した 2021/22 年度の侵攻後数か月と同様に、黒海ルート経由の輸出が減少することから、国内生産量に占める輸出量の割合は低水準となり、在庫は増加すると見られている。

とうもろこしーウクライナ

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	42.1	27.0	29.5 (28.0)	1.5	9.3	
消 費 量	8.4	5.2	5.5 (6.3)	-	5.8	
うち飼料用	7.2	4.0	4.5 (4.5)	-	12.5	
輸 出 量	27.0	27.0	20.0 (18.0)	0.5	▲ 25.9	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	7.6	2.4	6.4 (5.0)	1.0	166.8	
期末在庫率	21.5%	7.5%	25.2% (20.7%)	3.5	17.7	

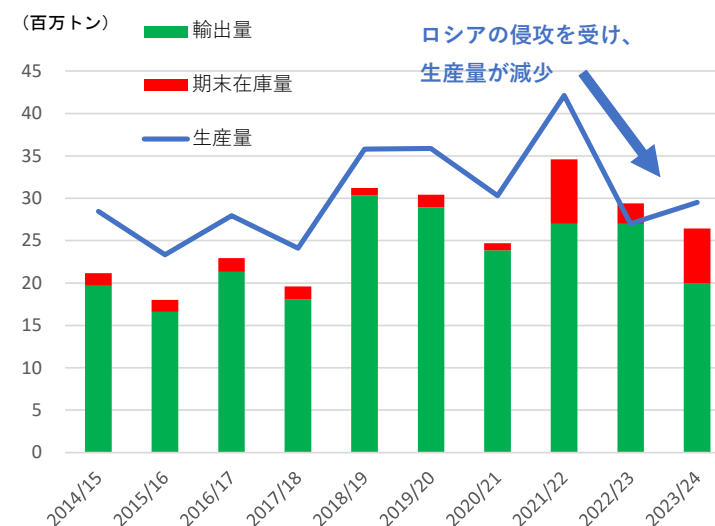
(参考)

収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	4.00 (4.06)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	7.68	6.67	7.38 (6.91)	0.38	10.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)

IGC 「Grain Market Report」(19 October 2023)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2023. 11. 9) をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

生産量

前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル等で上方修正も、インドネシア、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。しかし、史上最高の見込み。

消費量

前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU等で下方修正されたものの、インド、ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

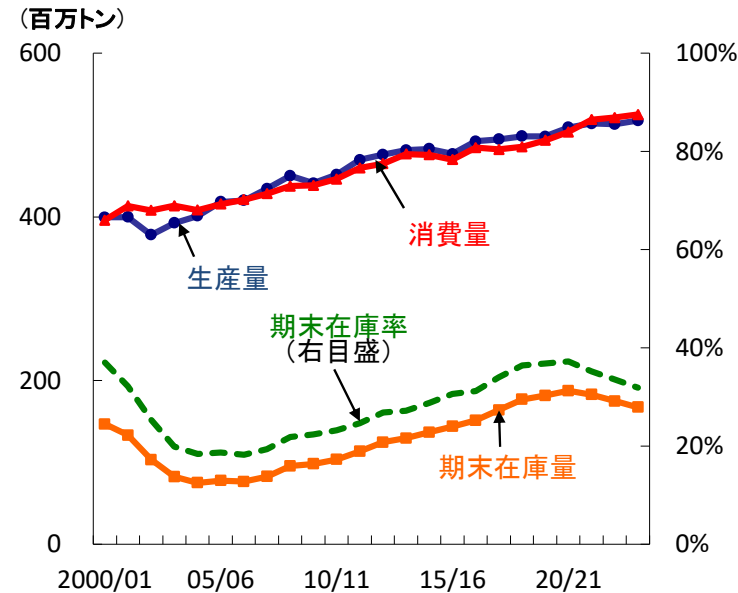
輸出量

前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ブラジル等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量

前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2023.11.9)をもとに農林水産省にて作成

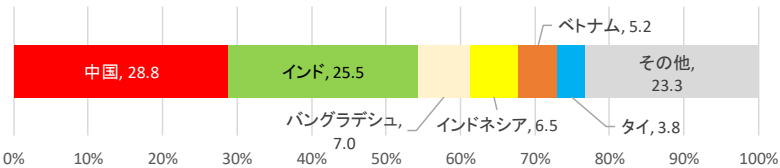
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

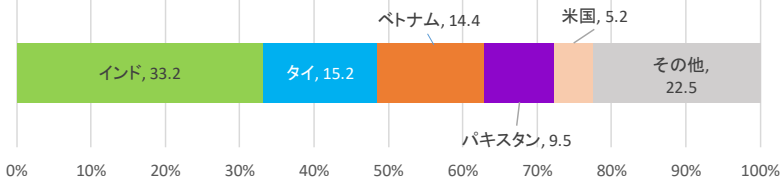
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	514.4	513.4	517.8	▲ 0.3	0.9
消 費 量	519.0	521.4	525.2	1.6	0.7
輸 出 量	56.9	53.9	52.7	0.4	▲ 2.3
輸 入 量	54.5	54.0	49.8	0.1	▲ 7.7
期末在庫量	182.8	174.8	167.4	▲ 0.1	▲ 4.2
期末在庫率	35.2%	33.5%	31.9%	▲ 0.1	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November, 2023)

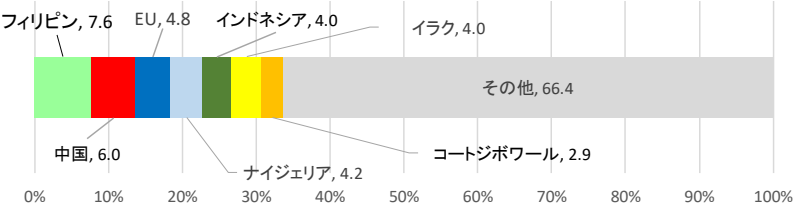
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(517.8百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(52.7百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(49.8百万トン) (単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 長粒種、中・短粒種ともに 11 月上旬で収穫が終了

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、現地調査に基づく単収のわずかな引下げから、前月予測よりわずかに下方修正されたものの、前年度比 37.1%増の 7.0 百万トンとなる見込み。特に 2 年連続の干ばつに見舞われ生産量が激減していた中・短粒種の生産量が 2.1 百万トンと、前年度比で 2.1 倍に回復することが要因。なお、長粒種の生産量は 4.8 百万トンと、前年度比で 1.2 倍。単収（8.64 もみトン／ヘクタール）は、2021/22 年度の史上最高値に匹敵する水準。

長粒種は、多くの州で平年より早いペースで 11 月 5 日の週に収穫が終了した。中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州でも、作付けの遅れと 10 月の多雨から平年より収穫が遅れていたものの、11 月上旬にほぼ収穫は終了した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 11.3%増の 5.1 百万トンと、史上最高の見込み。

2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の生産量増加に伴う中・短粒種の輸入減少から、前年度比 2.4%減の 1.2 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加と、それに伴う価格競争力の改善から、前年度比 33.8%増の 2.7 百万トンの見込み。2023/24 年度（8 月 1 日～10 月 26 日）の主な輸出先国はメキシコ（31.7 万トン）、イラク（16.4 万トン）、ハイチ（11.0 万トン）の順。

USDA「Rice Outlook」（2023.11.14）によれば、11 月 7 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、碎米 4 %混入）の価格は 760 ドル/トンと、2008 年 10 月初旬（772 ドル/トン）以来の高値が本年 1 月末より続いている（P.21 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。一方、地中海向けカリフォルニア米（1 等、碎米 4 %混入）である中粒種の価格は 1,000 ドル/トンと、前月より 100 ドル/トン、9 月初旬より 650 ドル/トン下落し、2021 年 5 月以来の安値となった。背景として、収穫が終了した中・短粒種の生産量増加見通しと、新穀の市場流入による価格下落がある。

期末在庫量は、生産量の下方修正から前月予測よりわずかに下方修正されたものの、前年度より 35.7%増の 1.3 百万トンの見込み。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

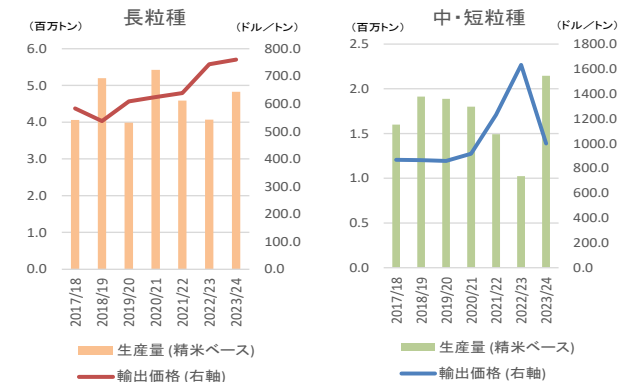
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 8 月～24年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	6.1	5.1	7.0	▲ 0.0	37.1
消費量	4.8	4.6	5.1	-	11.3
輸出量	2.7	2.0	2.7	-	33.8
輸入量	1.2	1.3	1.2	-	▲ 2.4
期末在庫量	1.3	1.0	1.3	▲ 0.0	35.4
期末在庫率	17.0%	14.4%	16.5%	▲ 0.4	2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.01	0.88	1.15	-	30.7
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.64	▲ 0.0	4.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November, 2023)

図：米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」（2023.11.14）より。価格は年度内の平均価格。
なお、2023/24 年度は 2023 年 11 月の価格。

< インド > カリフ米の単収低下で前年度より減産も5年平均比で増加見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、132.0百万トンと、前年度比で2.8%減も、過去5年平均比で5.6%増の見込み。8月の極度の降雨不足により、インドのコメ生産量の85%を占めるカリフ米の単収の減少予想が減産の要因。単収は、4.21もみトン／ヘクタールと、前年度比で1.2%減も、過去5年平均比では2.3%増の見込み。

USDA及び現地情報によると、10月19日にモンスーンが終了し、インド全土が乾期に入った。一期作稲は収穫がほぼ終了し、二期作稲は生殖成長期にある。乾季米の播種も始まった。

インド農業農民福祉省によると、ラビ米の作付済面積は、11月17日時点で0.77百万ヘクタールと、前年同期(0.81百万ヘクタール)を下回る。また、2022/23年度のカリフ米最終収量予測(2023.10.18)は135.8百万トンと、前年度(129.5百万トン)及び5年平均(120.4百万トン)を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、11月初旬に政府が穀物無償配給計画を延長(2023年4月～翌年3月)したことから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、前年度比2.2%増の117.0百万トンの見込み。政府の配給プログラムは8億人超が対象となっており、低所得世帯にコメ等が配給される見込み(2022/23年度は57百万トンとインド全体の消費量の半分に相当)。

2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量減少の予測に加え、輸出規制の強化から、前年度比13.6%減の17.5百万トンの見込み。ただ依然として世界第1位の輸出国で、世界の輸出量の約33%を占める。2023年8月までの主な輸出先国はベナン(137.4万トン)、セネガル(91.6万トン)、サウジアラビア(90.3万トン)の順。

なお、インドは、①2022年9月9日に、カリフ米の生産減少による国内価格高騰を抑制するため、碎米を輸出禁止とするとともに、中近東向け等に輸出されるバスマティ米(香り米)やパーボイルド米(蒸米)以外のコメに輸出税を賦課(20%)。さらに、②バスマティ米・パーボイルド米以外の精米の輸出禁止(2023年7月20日～2024年12月31日)、③パーボイルド米の精米への輸出税賦課(20%、2023年8月25日～2024年3月31日)、④バスマティ米の精米に最低輸出価格導入(1,200ドル/トン、2023年8月27日～。10月26日から950ドル/トンに引下げ)。

USDA「Rice Outlook」(2023.11.14)によれば、インド産米(碎米5%混入)の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で最低水準の価格となっていた(P.21の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

2023/24年度の期末在庫量は、穀物無償配給計画の延長から、前月予測から0.5百万トン上方修正も、前年度比7.1%減の32.5百万トンの見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)					
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	129.5	135.8	132.0 (133.0)	-	▲ 2.8
消 費 量	110.5	114.5	117.0 (113.0)	1.5	2.2
輸 出 量	22.0	20.3	17.5 (15.8)	-	▲ 13.6
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	34.0	35.0	32.5 (37.3)	0.5	▲ 7.1
期末在庫率	25.7%	26.0%	24.2% (28.9%)	0.1	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	46.28	47.83	47.00 (47.00)	-	▲ 1.7
単収(もみt/ha)	4.20	4.26	4.21 (2.88)	-	▲ 1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November, 2023)
IGC「Grain Market Report」(19 October, 2023) (単収は精米t/ha)

表:インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税(20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税(20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税: 12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)	—
	最低輸出価格導入(1,200 ドル/トン→950ドル/トンに引き 下げ(2023.10.26～))	2023.8.27～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税(20%)	2023.8.25～ 2024.3.31
バスマティ米・パーボイ ルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は、輸出を許可。

※有機米は本措置の対象外。

資料: インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 一期作稲は収穫終了で豊作の見込み、南部二期作晩稲の収穫は進展

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度の干ばつから回復して収穫面積が増加し、史上最高の単収が見込まれることから、前年度比2.1%増の149.0百万トンと、史上最高となる見込み。なお、東北部では、政府の大豆作付け推進政策の反動を受け、コメの作付面積が減少傾向にある。

農業農村部の農業状況調査によると、11月10日現在、一期作稲の収穫が終了し、南部の二期作晩稲の収穫は進んでいる。ほぼ豊作の見込みとのこと。

なお、二期作早稲米の収穫は終了した。国家統計局の「2023年早稲収量データ」(2023.8.23)によると、収穫面積は減少も、単収の増加から、総生産量は28.3百万もみトンと、前年から0.8%増加した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度比1.9%減の152.1百万トンの見込み。背景として、競売で販売される飼料用古米の減少(2021年及び2022年の半分以上の18.0百万トンの見込み)や、コメの国際価格の高騰等による輸入量減少、降雨過多で飼料用小麦が9月末まで大量に供給されたこと等があるとみられている。

2023/24年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、インドの輸出規制の影響を受けたコメの国際価格高騰から、前年度比31.5%減の3.0百万トンの見込み。中国は、主に飼料用とうもろこしの代替としての砕米に加え、もち米や香米をベトナム等アジア諸国から輸入している。これまでは、とうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の砕米をインド等から輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は減少している。

中国海関統計によれば、2023年9月の輸入量は12.9万トン(前年同月比73.7%減)、1～9月の輸入量は214.7万トン(前年同期比58.4%減)となった。

なお、USDAによると、「一帯一路」政策における賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っている。

期末在庫量は、前月からの変更はなく、対前年度比2%減の104.5百万トンの見込み。インドの期末在庫量(32.5百万トン)と合計すると世界の期末在庫量の約82%を占める。

コメー中国

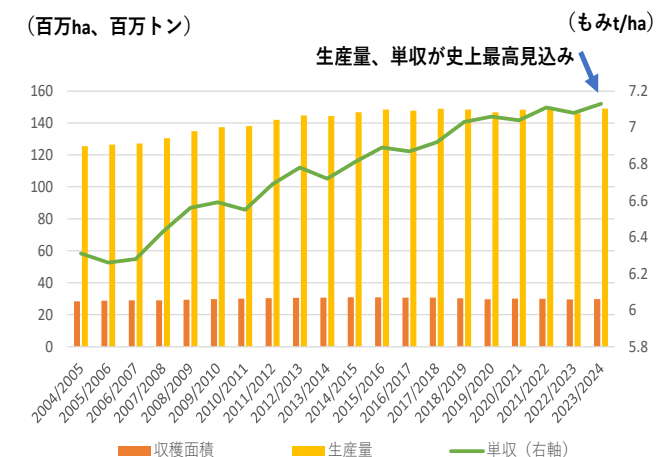
北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	149.0	146.0	149.0 (148.9)	-	2.1
消 費 量	156.4	155.0	152.1 (151.0)	-	▲ 1.9
輸 出 量	2.1	1.7	2.0 (2.2)	-	14.9
輸 入 量	6.0	4.4	3.0 (3.8)	-	▲ 31.5
期末在庫量	113.0	106.6	104.5 (104.8)	-	▲ 2.0
期末在庫率	71.3%	68.0%	67.8% (68.4%)	-	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	29.85 (29.45)	-	1.4
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.13 (4.96)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November, 2023)
IGC 「Grain Market Report」(19 October, 2023) (単収は精米t/ha)

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05－2023/24年度)



< タイ > 収穫期の雨季米は干ばつや豪雨で前年度より収量減少見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、本年5月の雨季の開始の遅れと、5～8月の降雨不足により、今後の乾季米向け灌漑用水の不足が見込まれることから、前年度比6.7%減の19.5百万トンの見込み。

2022/23年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、タイ政府による収穫面積予測の上方修正（11.07百万ヘクタールと史上最高となる見込み）等を受け、2021/22年度比5.0%増の20.9百万トンの見込み。

現地情報によると、10月の降雨量は、雨季米の主要生産地である北部、東北部、中部で例年を上回った。1～10月の年間累計降雨量も、中部では例年より20%以上少ないが、北部と東北部ではほぼ例年並みとなった。ただ、降雨の遅れによる収穫への影響を注視する必要がある。また、2023/24年乾季作へのエルニーニョ現象の影響に対する懸念も残っており、農業経済局は灌漑用水供給不足から、2023/24年乾季作の作付面積が前年比35%減の124万ヘクタールになると予測している。

アセアン食料安全保障情報システム(2023.11)によると、雨季米は現在、収穫期にある。本年6月～8月の干ばつや9月～10月の洪水の影響から、作付面積は前年度より1.8%減少し、単収も減少する見込み。雨季米は作柄が悪く、収量は5%減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の減少見込みから、対前年度比5.9%減の8.0百万トンの見込み。

2022/23年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、2021/22年度比10.4%増の8.5百万トン。

タイ米輸出業者協会によれば、2023年1～9月の輸出量は、前年同期比12.3%増の608.2万トンとなった。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の4.3万トンから大幅増の90.5万トンと、最大の輸出先となった。また、南アフリカが72.9万トン（前年同期57.8万トン）、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは72.6万トン（同109.8万トン）、米国は51.0万トン（同51.0万トン）のタイ米を輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.11.9）によれば、11月7日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、新穀の市場への流入による供給量増加から、前月から32ドル／トン下落し、563ドル／トンとなった（P.21の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

期末在庫量は、前月からの変更はなく、減産見込みから対前年度比28.9%減の2.3百万トンの見込み。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	19.9	20.9	19.5 (19.7)	-	▲ 6.7	
消 費 量	12.7	12.7	12.5 (12.8)	-	▲ 1.6	
輸 出 量	7.7	8.5	8.0 (8.7)	-	▲ 5.9	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
期末在庫量	3.5	3.3	2.3 (3.1)	-	▲ 28.9	
期末在庫率	17.3%	15.5%	11.4% (14.6%)	-	▲ 4.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.70	11.07	10.60 (10.85)	-	▲ 4.2	
単収(もみt/ha)	2.81	2.86	2.79 (1.86)	-	▲ 2.4	
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(9 November, 2023) IGC「Grain Market Report」(19 October, 2023) (単収は精米t/ha)						

表：タイの国別輸出量

(単位：万トン)				
国名		2022 年 1～9 月	2023 年 1～9 月	増減量
1	インドネシア	4.3	90.5	86.2
2	南アフリカ	57.8	72.9	15.2
3	イラク	109.8	72.6	-37.2
4	米国	51.0	51.0	0.1
5	マレーシア	11.0	25.8	14.8
6	中国	45.6	25.6	-20.0
7	日本	19.9	24.0	4.1
8	セネガル	17.5	19.0	1.5
9	カメルーン	10.9	16.1	5.2
10	ベニン	21.1	12.7	-8.4
計		541.8	608.2	66.4 (前年比12.3%増)

資料：タイ関税局（2023.11）

< ベトナム > 北部の雨季米は収穫中、南部は乾季米の播種を開始

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が過去最高だった前年度の水準を維持する見込みも、前年度よりわずかに増加し 27.0 百万トンの見込み。なお、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、生産量は史上最高となった 2014/15 年度（28.2 百万トン）を境に緩やかな低下傾向にある。

2022/23 年度の生産量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、2021/22 年度比 1.1%増の 26.9 百万トンの見込み。単収は 0.03 もみトン/ヘクタール上方修正も、収穫面積の 0.06 百万ヘクタール下方修正が要因。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.11）によると、①北部では夏秋作（雨季米）が収穫期にあり、作付面積の 74.3%が収穫された。11 月中旬に収穫が終了する見込み。単収は、5.5 トン／ヘクタールと、前年と同水準の見込み。②南部の秋冬作（雨季米）は収穫期にあり、単収は 5.6 トン／ヘクタールと、温暖な気候と十分な灌漑用水から前年より増加する見込み。③メコンデルタ地域のいくつかの省では、乾季米（冬春作）の播種が開始されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、精米の輸出需要に対する供給量が不足していること等から、前年度比 9.5%減の 7.6 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸出量も、前月予測からの変更はなく、フィリピンによる史上最高の輸入量の継続見込みとインドネシアの今秋の追加需要見込みから、8.4 百万トンと前年度比 18.3%増の見込み。特にインドネシアは、エルニーニョ等によるコメの減産見込みや、燃料価格高騰による投入財費用の高騰から、国内コメ価格が上昇。価格抑制のための在庫放出に加え、低所得世帯へのコメ配給で、在庫が食料安全保障水準以下にまで低下。これを補うため、2023 年 1～12 月までに合計 350 万トンのコメを買い付ける見込み。本年 1～7 月までの輸入（130 万トン）のうち、ベトナムからの輸入は 54.7 万トン。

ベトナム関税総局によれば、2023 年 1～10 月の輸出量は 705.3 万トンと、前年同期（608.5 万トン）に比べ 15.9%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（262.9 万トン）、インドネシア（102.9 万トン）、中国（88.4 万トン）、ガーナ（55.0 万トン）の順。特に、インドネシア向けが前年度比 18 倍。またフィリピン政府はコメの追加輸入（100 万トン）を指示しており、ベトナムからの輸入増加も見込まれる。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2023.11.9）等によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 11 月 7 日までの週の価格は、アフリカ、インドネシア、フィリピンからの旺盛な需要から、前月の価格から 60 ドル／トン上昇して 676 ドル／トンとなった。

期末在庫量は、2022/23 年度の前年度の生産量の下修正から、前月から 0.1 百万トン下方修正され、前年度比 25.0%減の 1.2 百万トンの見込み。

コマーベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年 1月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.7	26.9	27.0 (28.0)	-	0.2
消 費 量	21.4	21.4	21.2 (21.7)	-	▲ 0.9
輸 出 量	7.1	8.4	7.6 (7.8)	-	▲ 9.5
輸 入 量	1.7	1.8	1.4 (1.1)	-	▲ 22.2
期末在庫量	2.7	1.6	1.2 (2.0)	▲ 0.1	▲ 25.0
期末在庫率	9.3%	5.4%	4.2% (6.8%)	▲ 0.2	▲ 1.2

(参考)
 収穫面積(百万ha) 7.10 7.10 7.15 (7.10) ▲ 0.01 0.7
 単収(もみt/ha) 6.01 6.07 6.05 (3.90) 0.02 ▲ 0.3
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 November, 2023)
 IGC 「Grain Market Report」 (19 October, 2023) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料: USDA 「Grain : World Markets and Trade」 (2023.11.9) より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・南アフリカ等で下方修正されたものの、米国、ウクライナ、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

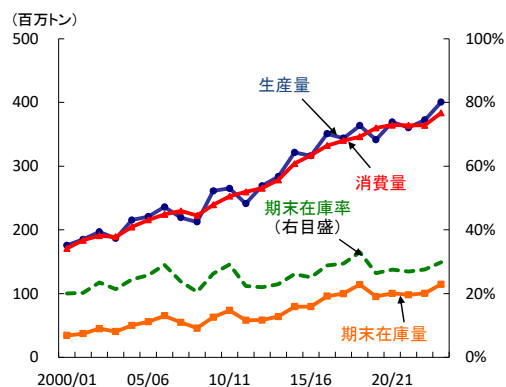
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・タイ等で下方修正されたものの、中国、ロシアで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・南アフリカ等で下方修正されたものの、ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2023. 11. 9）をもとに農林水産省で作成

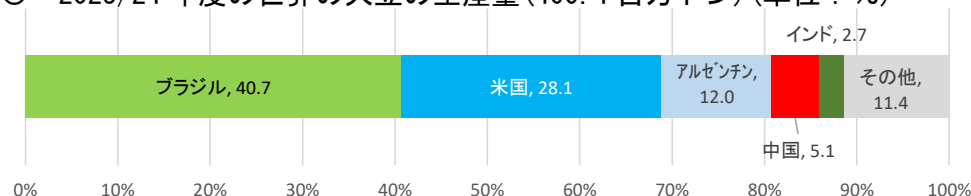
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

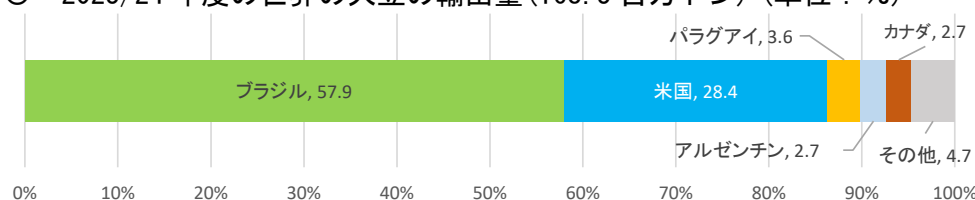
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	360.4	372.2	400.4	0.9	7.6
消 費 量	364.0	364.2	383.7	0.4	5.4
うち搾油用	314.5	313.4	329.5	1.0	5.1
輸 出 量	154.3	171.0	168.3	0.0	▲ 1.6
輸 入 量	155.6	165.1	165.8	-	0.4
期末在庫量	98.1	100.3	114.5	▲ 1.1	14.2
期末在庫率	26.9%	27.5%	29.8%	▲ 0.3	2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 November 2023)

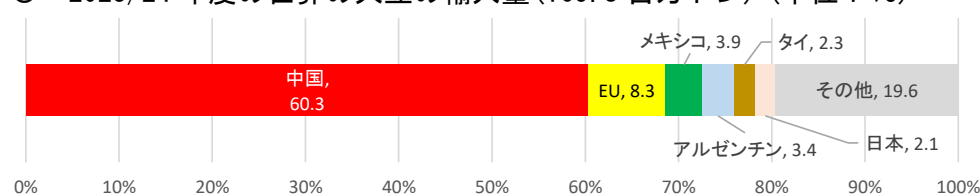
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量(400.4 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量(168.3 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量(165.8 百万トン) (単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 単収の引上げを受け、生産量は0.7百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の実産量は、ウィスコンシン州、ミネソタ州、オハイオ州等での単収の引上げにより単収予測が前月から0.02トン/ヘクタール引き上げられたことを受け前月予測から0.7百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少により前年度より3.3%減の112.4百万トンの見通し。

USDA「Crop Progress」(2023.11.13)によれば、主要18州における11月12日現在の収穫進捗率は95%と、前年度同期(96%)をやや下回ったものの、過去5年平均(91%)を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より5.1%増の66.1百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく前年度より11.9%減の47.8百万トンの見込み。史上最高の豊作見通しとなったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。

USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、前月予測から0.7百万トン上方修正されたものの、前年度より8.5%減の6.7百万トンとなる見込み。期末在庫率は5.9%で、引き続き低水準に留まる見通し。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2023.11.9)によれば、本年11月の米国の大豆価格は、11月6日現在、国内消費が増加し、9月と10月の輸出が好調であったため、前月から25ドル/トン上昇し527ドル/トン。

USDAによれば、2023年9～10月の輸出量は1,190万トンと、前年度同時期の1,273万トンより7%減。内訳はアルジェリア(735万トン)、中国(141万トン)、メキシコ(36万トン)の順となっている。

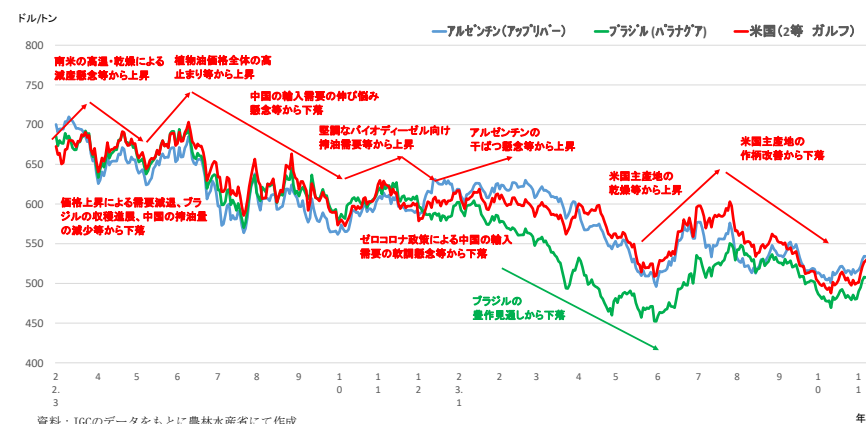
大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	121.5	116.2	112.4	0.7	▲ 3.3
消費量	62.9	62.8	66.1	▲ 0.0	5.1
うち搾油用	60.0	60.2	62.6	-	4.0
輸出量	58.6	54.2	47.8	-	▲ 11.9
輸入量	0.4	0.7	0.8	-	22.4
期末在庫量	7.5	7.3	6.7	0.7	▲ 8.5
期末在庫率	6.1%	6.2%	5.9%	0.6	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.93	34.87	33.50	-	▲ 3.9
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.35	0.02	0.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量 (CONAB) は前年度より 5.1%増で史上最高

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始されている 2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が史上最高となる見通しから、前年度より 3.2%増の 163.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2023.11.9) によれば、2023/24 年度の実生産量は、前年度より 5.1%増の 162.4 百万トンと史上最高の見通し。生産量の増加は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることによるものとみられる。

USDA によれば、11 月 3 日現在、主要生産州の中西部のマット・グロッソ州の作付進捗率は 92%と、前年度同期 (96%)、過去 5 年平均 (96%) を下回っている。11 月上旬、北部及び中西部では高温乾燥となり、生育初期の成長に悪影響を与えるとみられる。また、中西部の乾燥、南部の降雨過多による作付け遅延により、大豆の収穫が遅れるとの懸念がある。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料向けの大豆粕需要が増加することから、前年度より 5.1%増の 59.7 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量が 2 年連続で史上最高を更新し、価格競争力が高まる見込みから、前年度より 2.1%増の 97.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1～10 月の輸出量は 92.8 百万トンで、前年同期 (74.3 百万トン) に比べ 24.9%増となっている。輸出先は、中国 (66.6 百万トン)、アルゼンチン (3.9 百万トン)、スペイン (2.7 百万トン) の順。堅調な中国向け輸出に加え、干ばつにより減産したアルゼンチンへの搾油用需要を満たすための輸出が大幅に増加した。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。南北鉄道が稼働することで、最大生産州のマット・グロッソ州等の内陸部で生産された大豆・とうもろこしを輸出港まで効率的に輸送できるようになった。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸出する鉄道の拡張工事も行われており、これらの改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	130.5	158.0	163.0 (160.0)	-	3.2
消 費 量	54.0	56.8	59.7 (59.6)	-	5.1
うち搾油用	50.7	53.0	55.8 (56.3)	-	5.2
輸 出 量	79.1	95.5	97.5 (99.5)	-	2.1
輸 入 量	0.5	0.2	0.5 (0.4)	-	181.3
期末在庫量	27.6	33.4	39.7 (3.9)	2.0	18.7
期末在庫率	20.7%	22.0%	25.2% (2.4%)	1.3	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.60	44.10	45.60 (41.49)	-	3.4
単収(t/ha)	3.14	3.58	3.57 (3.86)	-	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 November 2023)
IGC「Grain Market Report」(19 October 2023)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実作付けは、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年												2024年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 25.9(百万t)								
冬とうもろこし	作付 4.1(百万ha)												作付 17.0(百万ha)								
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等												収穫 162.4(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2023.11.9)

＜ アルゼンチン ＞ 2022/23 年度は、干ばつによる減産を受け輸入が史上最高に

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥の影響を強く受けた前年度から回復する見通しから、92.0%増の 48.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所の週報（2023.11.16）によれば、2023/24 年度の作付予定面積は 17.3 百万ヘクタールと、前年度（16.2 百万ヘクタール）より 6.7%増の見込み。

USDA によれば、11 月上旬、中央部・北東部において、長期的な乾燥を和らげる降雨があった。アルゼンチン政府によれば、11 月 9 日現在、作付進捗率は 29%と、干ばつの影響を受けた前年度を上回っているものの、降雨不足のために例年より大幅に遅れている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が回復することから、前年度比 14.2%増の 41.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 37.1%減の 5.7 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸入量は、前回予測から 0.1 百万トン下方修正され、干ばつによる減産で代替需要が増加したことにより、9.1 百万トンで史上最高の見込み。アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～9 月の輸入量は 881.8 万トンで、前年同時期（307.1 万トン）の 2.9 倍。

現地情報によると、2022/23 年度上半期の大豆圧搾量は 15.9 百万トンと、干ばつによる国内供給減を受けて過去 18 年間で最低の水準となった。来年 3 月頃に開始する 2023/24 年産の収穫まで、加工工場の稼働のために輸入等で大豆を確保できるかが課題となっている。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 9.8%増の 4.6 百万トンの見込み。2023 年

1～9 月の輸出量は、110.0 万トンで前年度（244.9 万トン）より 55%減。輸出先は、中国（91.3 万トン）、米国（5.8 万トン）、チリ（1.6 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2 %引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

2023 年 11 月 19 日に実施された大統領選挙の結果、左派政権に代わり右派のミレイ氏が当選しており、今後の輸出税への影響など、注視が必要。

大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	43.9	25.0	48.0 (44.0)	-	92.0
消 費 量	46.0	36.6	41.8 (42.7)	-	14.2
うち搾油用	38.8	30.3	34.5 (38.9)	-	13.8
輸 出 量	2.9	4.2	4.6 (5.1)	-	9.8
輸 入 量	3.8	9.1	5.7 (5.6)	-	▲ 37.1
期末在庫量	23.9	17.2	24.6 (3.9)	▲ 0.3	42.7
期末在庫率	48.9%	42.2%	53.0% (8.1%)	▲ 0.6	10.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.90	14.40	16.40 (15.87)	-	13.9
単収(t/ha)	2.76	1.74	2.93 (2.77)	-	68.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」 (19 October 2023)

表：アルゼンチンの大豆輸入量、輸入先国
(7～9月は輸入ペースが落ちたものの、
対前年度同時期比で輸入量が大きく増加)

国名	2022/23年度 (2023年 1～9 月)		2021/22年度 (2022年 1～9 月)	対前年度 同時期比 (%)
	輸入量 (万t)	シェア (%)	輸入量 (万t)	
ブラジル	396.4	45.0	26.1	1,417.9
パラグアイ	447.9	50.8	159.5	180.9
ボリビア	31.9	3.6	37.5	-14.9
ウルグアイ	3.0	0.3	77.4	-96.1
その他	2.6	0.3	6.6	-60.6
計	881.8	100.0	307.1	187.1

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）のデータをもとに
農林水産省で作成。

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の生産量・消費量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が減少するものの、収穫面積が増加することから、全体として前年度より 1.1%増の 20.5 百万トンで史上最高の見込み。

中国政府は、大豆の作付け拡大に向けた取組等を引き続き進めている。

11 月上旬現在、主産地の東北地区の黒竜江省等では収穫は終盤を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、搾油需要が前月予測より増加する見通しから前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、国内の大豆粕及び食料の需要が増加することにより、前年度より 3.4%増の 120.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 0.8%減少となるものの 100.0 百万トンと高水準を維持している。

農業農村部によれば、2023 年 1 ～ 9 月の輸入量は、前年同時期より 6.4%増の 7,882.3 万トン。内訳は、ブラジル (5,487.7 万トン)、米国 (2,010.7 万トン)、アルゼンチン (154.7 万トン) の順となっている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 9 月号」によれば、9 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（5,060 元/トン）から上昇し、5,100 元/トンとなった。9 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月並みの 5,740 元/トンとなった。市場は新穀旧穀の端境期にあり、新穀の供給を受けて、取引業者は慎重に在庫を補充しているため、国内価格は横ばいで推移している。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、消費量の引上げ等から前月予測から 3.5 百万トン下方修正され、過去最高だった前年度より 0.3%減の 33.7 百万トンの見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測から 3.0 ポイント下方修正され、前年度より 1.0 ポイント減の 27.9%となる見込み。

報道情報によると、10 月 23 日、中国の輸入企業は、米国アイオワ州で開催された米中持続的農業貿易フォーラムにおいて 10 億ドル単位の米国産農産物の買付け契約に合意した。対象品目は主に大豆であり、他の穀物（ソルガム、小麦、とうもろこし）も含まれる。

大豆－中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.4	20.3	20.5 (21.5)	-	1.1
消 費 量	108.4	116.5	120.5 (120.7)	0.5	3.4
うち搾油用	87.9	95.0	98.0 (100.3)	1.0	3.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	11.1
輸 入 量	90.5	100.9	100.0 (102.0)	-	▲ 0.8
期末在庫量	29.3	33.8	33.7 (40.8)	▲ 3.5	▲ 0.3
期末在庫率	27.0%	29.0%	27.9% (33.8%)	▲ 3.0	▲ 1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.45 (8.40)	-	2.1
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.96 (1.95)	-	▲ 1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (9 November 2023)
IGC 「Grain Market Report」 (19 October 2023)

表：中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2023年 9 月			2023年 1 月～2023年 9 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	688.0	96.2	ブラジル	5,487.7	69.6
米国	13.4	1.9	米国	2,010.7	25.5
ロシア	9.4	1.3	アルゼンチン	154.7	2.0
タンザニア	2.4	0.3	ロシア	102.1	1.3
エチオピア	0.9	0.1	カナダ	94.5	1.2
ベナン	0.7	0.1	エチオピア	9.7	0.1
その他	0.6	0.1	その他	22.9	0.1
計	715.4	100	計	7,882.3	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 作付面積の増加により、生産量は前年度から 2.4%増

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2023.11.21）によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.4%増、過去 5 年平均から 3.0%増の 6.7 百万トンの見込み。単収が 2.95 トン/ヘクタールと、高水準の単収だった前年度より低下するものの、収穫面積が 2.28 百万ヘクタールと前年度より 7.6%増と大幅に増加することによる。

収穫面積が大幅に増加するのはマニトバ州であり、マニトバ州穀物報告によると、2022 年の良好な価格と史上最高の収量を受けて、農家が作付面積を増加させたとみられる。

AAFC によれば、11 月 21 日現在、カナダ東部では、大豆の収穫は概ね終了している。温暖な気候と良好な水分状況により生育状況は良好だった。

カナダの大豆生産は、小麦や菜種と異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアを占める。このほか、オンタリオ州に隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.5%増の 2.7 百万トンの見込み。バイオ燃料需要増による搾油の収益改善が見込まれていることによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による輸出余力の増大を受けて、前年度より 7.3%増の 4.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の 2023 年 8～9 月の輸出量は 0.02 万トンで、前年度（4.4 万トン）を下回っている。国別では、全量が米国向けとなっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部のため、主要な輸出ルートは、通常アジア向けは五大湖を通過してパナマ運河経由で輸出されるルートとなっている。

AAFC によれば、2023/24 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸出増により前年度から 13.6%減の 0.3 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.2	6.5	6.7 (6.7)	-	2.4
消 費 量	2.3	2.6	2.7 (2.4)	-	2.5
うち搾油用	1.8	1.8	1.9 (1.9)	-	6.4
輸 出 量	4.3	4.2	4.6 (4.8)	-	7.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.5)	-	-
期末在庫量	0.4	0.6	0.6 (0.3)	-	-
期末在庫率	6.5%	9.5%	9.0% (4.5%)	-	▲ 0.5

(参考)

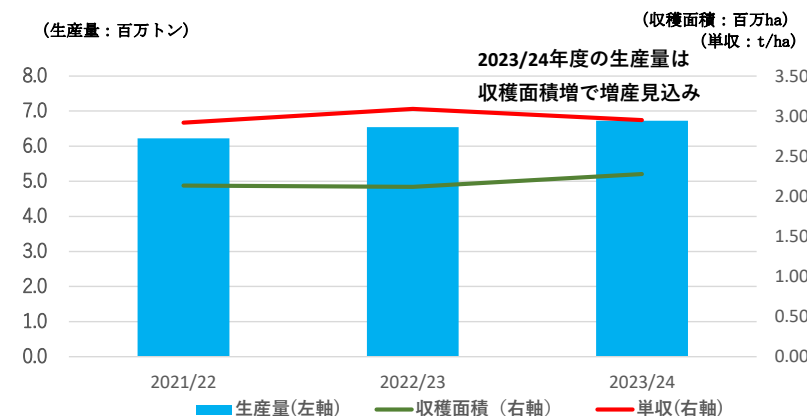
収穫面積(百万ha) 2.08 2.12 2.25 (2.28)

単収(t/ha) 2.99 3.09 2.98 (2.95)

資料：USDA 「PS&D」 「World Agricultural Production」 (9 November 2023)

AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (21 November 2023)

図：カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (2023.11.21) をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2023/24年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	23年6月～24年5月	23年9月～24年8月	23年8月～24年7月	23年9月～24年8月
カナダ	23年8月～24年7月			23年8月～24年7月
豪州	23年10月～24年9月		24年3月～25年2月	
EU	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
中国	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月
ロシア	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		23年9月～24年8月
ウクライナ	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
ブラジル		24年3月～25年2月	24年4月～25年3月	23年10月～24年9月
アルゼンチン	23年12月～24年11月	24年3月～25年2月		23年10月～24年9月
タイ			24年1月～12月	
インド	23年4月～24年3月		23年10月～24年9月	
ベトナム			24年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2023/24年度は、米国の小麦では2023年6月～2024年5月、ブラジルのとうもろこしでは2024年3月～2025年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

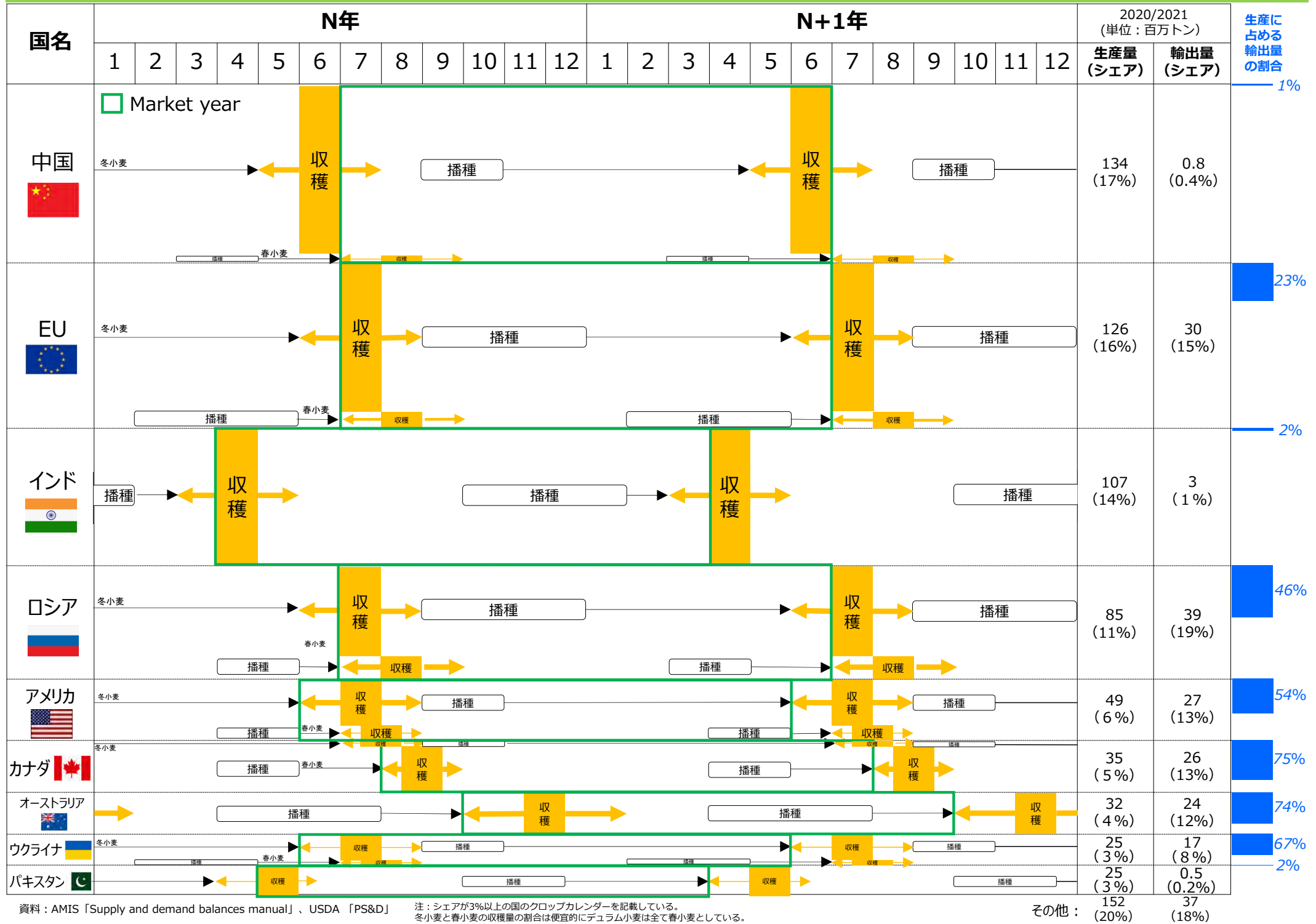
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



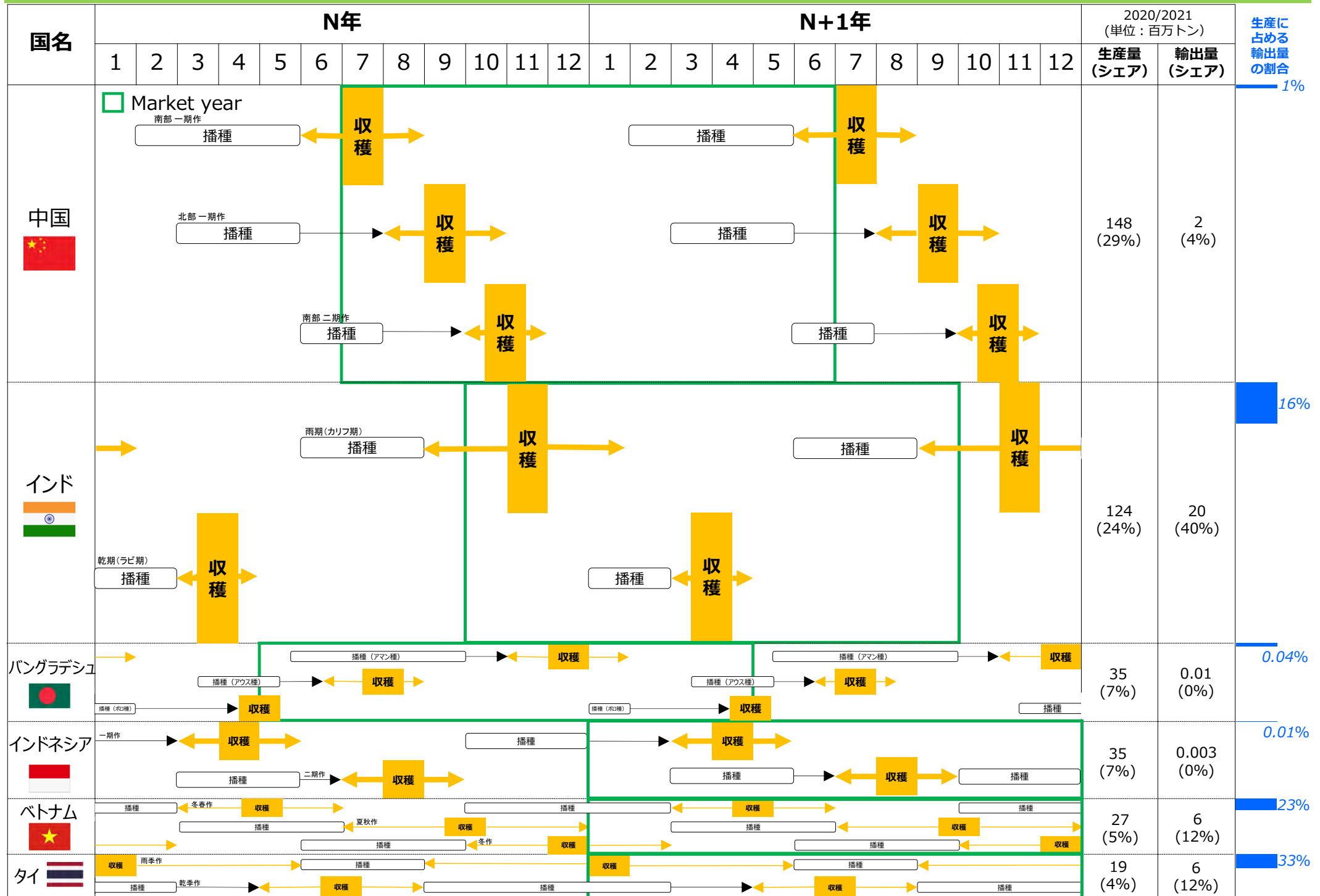
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

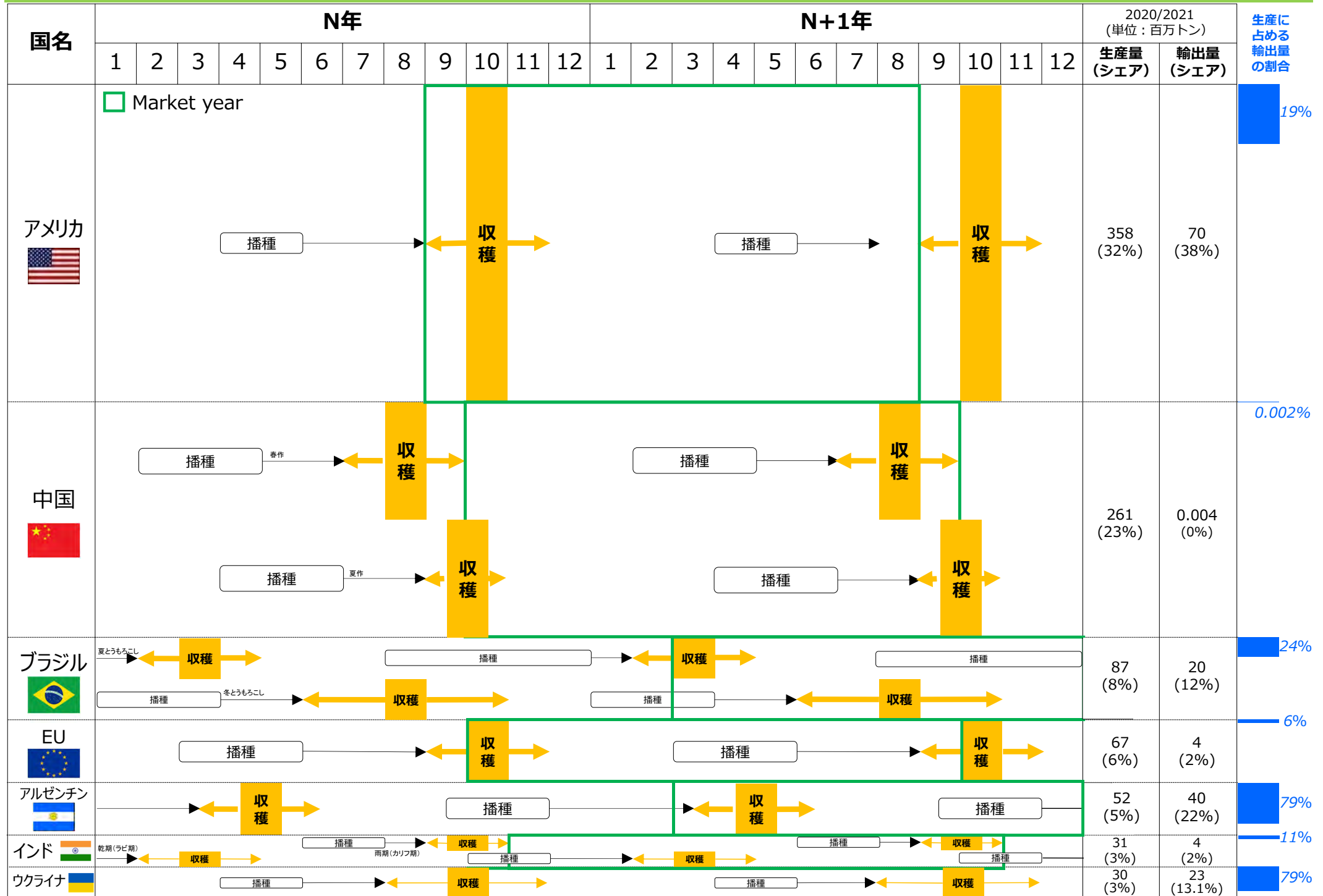
その他：

121
(24%)

16
(32%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



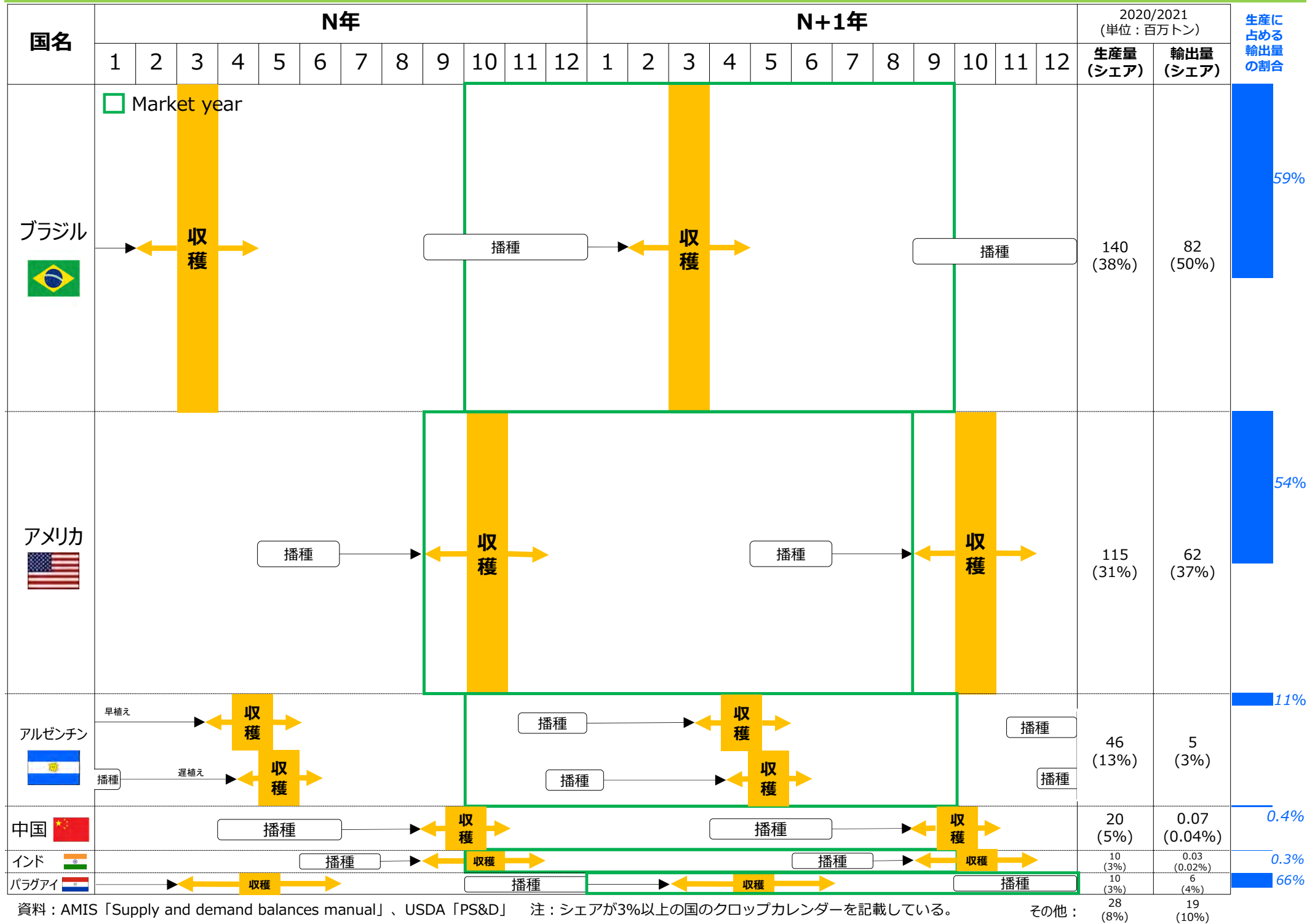
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：242 (19%) 21 (11%)

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

